



## 第 11 回

# 全国インターアクト研究会報告書



2024年6月15日(土)・16日(日)

神戸駅前研修センター

## 2023-24 年度 国際ロータリー

### 第 1 1 回全国インターアクト研究会 神戸会議 プログラム

大会テーマ 「未来のリーダーを育てるロータリー」

#### ● 1 日目 (6 月 15 日)

12 : 00	開場・登録受付	司会・進行	三木 健義
13 : 00	開会点鐘	第 2680 地区ガバナー	安行 英文
	国歌「君が代」斉唱		
	ロータリーソング「奉仕の理想」斉唱	ソングリーダー	飯田美奈子
	開会挨拶	第 2680 地区ガバナー	安行 英文
		国際ロータリー理事	佐藤 芳郎
		TRF 管理委員	三木 明
13 : 25	テーマ・本研究会の趣旨説明	地区実行委員長	黒田 建一
13 : 30	「危機管理とファシリテーション」	地区実行委員長	黒田 建一
14 : 20	IAC 海外旅行保険等について	RIJYEM 事務統括・保険管理	津留 起夫
14 : 30	休憩		
14 : 40	パネルディスカッション 「未来のリーダーに届けるべき指導者像」		
	賀川豊彦記念館 馬場 一郎氏／安行 英文ガバナー／吉岡 博忠パストガバナー		
16 : 20	休憩		
16 : 30	当地区の取り組み 環境紙芝居 (事例発表)	環境の保護委員長	城 守
16 : 50	終了		
17 : 00	全体写真		
17 : 30	懇親会	所感・乾杯	国際ロータリー理事エレクト
19 : 30		ご挨拶・中締め	ガバナーエレクト
			水野 功
			矢坂 誠徳

#### ● 2 日目 (6 月 16 日)

8 : 00	受付開始		
8 : 30	全国地区青少年奉仕委員長会議 (207 会議室)		
9 : 00	分科会		
	第一分科会 インターアクトの国際理解と社会奉仕活動 (207 会議室)		
		第 2680 地区ガバナー	安行 英文
	第二分科会 インターアクトの組織と運営 (307 会議室)		
		地区次々期代表幹事	三木 健義
	第三分科会 インターアクトと危機管理 (307 会議室)		
	(RI 認定保険等を含む)	地区実行委員長	黒田 建一
10 : 30	休憩		
10 : 40	分科会テーマに基づくフォーラム (分科会発表)		
11 : 30	総評	TRF 管理委員	三木 明
11 : 35	次回開催地紹介・ホスト地区挨拶	第 2600 地区パストガバナー	桑澤 一郎
11 : 45	謝辞		
12 : 00	閉会点鐘	第 2680 地区ガバナー	安行 英文



15 June 2024

**Dear Interactors and members of Rotary,**

Welcome to the 2024 All Japan Interact Institute. I believe that Interact is one of the most important parts of Rotary. It helps provide the leaders of tomorrow to become better people, while developing their skills to help other people. There is no better way to begin a lifelong commitment to Service above Self.

This Institute is a wonderful opportunity for all participants to expand your networks and knowledge of the opportunity Interact presents. For the Interactors, it builds awareness about what Rotary can do for you, while learning about all the good Rotary does in the world. For members of Rotary, this Institute can inspire you to place a high priority on nurturing an enduring relationship with the next generation.

Thank you so much for taking your time to be a part of this extraordinary experience and for sharing your Rotary stories across Japan and the rest of the world. This is how we Create Hope in the World and how we inspire the world to focus on our future.



Warmest Regards,

R. Gordon R. McNally  
President, Rotary International 2023-24

## インターアクターとロータリアンの皆様

インターアクターおよびインターアクト研究会ご参加者の皆様へご挨拶申し上げます、2024 年全国インターアクト研究会へようこそ。私は、インターアクトがロータリーの最重要要素のひとつであると信じております。

インターアクトは他者を助けるスキルを培いつつ、明日のリーダーにより良い人間となるための能力を提供します。生涯にわたる超私の奉仕との関わりの第 1 歩としてこれ以上の方法はありません。参加者全員にとってこの研究会は、そのネットワークを拡大し、インターアクトが提供する機会についての知識を深める素晴らしいチャンスです。インターアクターにとっては、ロータリーが世界で行っているあらゆる良いことについて学びながら、ロータリーが自分達に何をしてくれるのかについて認識を深めることができます。ロータリーの会員にとっては、この研究会が、次世代との永続的な関係を育むことに高い優先順位を置こうと強く思うきっかけとなるでしょう。このような特別な体験のために時間を割いていただき、また、日本や世界各地でロータリーの話と共有していただき、本当にありがとうございます。こうして我々は世界に希望を生み出しており (Create Hope in the World)、私たちの未来に目を向けるよう世界に働きかけているのです。

R. Gordon R. McNally  
2023-24 年度 国際ロータリー会長

# ご挨拶

2022-24 年度 国際ロータリー理事

佐藤 芳郎

(岡山南ロータリークラブ)



ロータリー・インタラクティブクラブの活動を通じて、青少年が奉仕の重要性を理解して、将来ロータリーの世界平和に向けた奉仕活動を実践すべくご指導いただいている皆様に、神戸にご参集いただき、誠に有難うございます。御存知のようにロータリーは五大奉仕部門の一つに「青少年奉仕」を掲げ、青少年や若い世代の社会人がリーダーシップ能力を伸ばせるように支援して、我々の奉仕の理念を引き継いでもらうことを望んでいます。この意味から、インタラクティブクラブは若い人達が奉仕活動を体験し、将来地域やグループをリードする能力を学ぶことを目指していますが、この研究会ではそれをより効果的に実践する方法、及び成果の見られた事例紹介、並びに今後対処すべき項目を検討いたします。

マッキナリー本年度 RI 会長は「世界に希望を生みだそう」を年度テーマに、ロータリアンとローターアクターを核とするロータリーファミリーが積極的に活動して、世界の各地で「多彩な希望」を生みだすことを提唱しています。また、アーチック RI 会長エレクトは、「ロータリーのマジック」を次年度テーマに掲げ、各々が世界中で素晴らしい奉仕活動を繰り広げて、マジックのような目を見張る成果が達成されることを期待します。

RI では従来からの「単年度主義」に加えて、今後の各リーダーの協議で「3年間の目標」を策定する「継続性」の加味を強調しています。ロータリーの第2世紀に入って、RI は時代の変化に合った変革が不可欠と考えており、加盟各クラブにもさらなる発展を目指す「進化」をお願いしています。そして、奉仕面では引き続いてポリオ根絶と人道奉仕7重点項目に注力しています。2023 暦年でポリオ天然株発症報告は 12 例でしたが、発生はアフガニスタンとパキスタンの国境地帯の狭い範囲に限定され、ワクチンの重点投与で根絶の可能性が見えていると言われます。ロータリーが最優先事項に掲げるポリオ根絶活動で、近い将来には人類史上2番目の感染症根絶が達成されることでしょうか。また近年、奉仕の重点項目に追加された「環境」分野や、マラリア感染削減等の実績のあった人道的奉仕事業の中から抽出して、重点的に資金投下する「大規模プログラム補助金」が成果を上げています。

他方、会員数は世界合計では横這いですが、アジア・アフリカで増加している反面、ロータリー先進国である米国・英国・豪州・ヨーロッパ等での減少が目立ちます。日本も例外ではなくこの数年会員減少が続いています。RI では、世界中で画一的に運営されるロータリーが地域実態に合わなかったり、IT を多面的に活用する若い人達の興味を引かないのではないかと危惧して、パイロットゾーンでの「地域化」実験に着手しました。

このような環境下で、若い人達にロータリーの奉仕実践に理解を深め、奉仕の理念と世界平和に向けた活動に共感して、若い力で引き継いでもらう活動を推進することには大きな意義があると考えます。インタラクティブクラブの活動を通じてロータリーの奉仕精神の浸透を図り、若い人達が世界平和を目指せるプログラムを開発・普及させていただきたいと祈念致します。そしてこの研究会が御参加の一人一人が世界で希望を生み出す一助になり、また各地でマジックのような素晴らしい奉仕を実現されるきっかけとなることを期待しております。また、青少年奉仕に人一倍ご理解を示される皆様が、想いの同じお仲間と存分に情報交換されて、より一層友情を深められることを心より希望致します。

## 第 11 回全国インターアクト研究会に寄せて

ロータリー財団管理委員  
元国際ロータリー理事

**三木 明**

(姫路ロータリークラブ)



第 11 回全国インターアクト研究会を神戸の地で開催されますこと大変嬉しく思い、全国からご参加くださいました皆様に心から厚く御礼申し上げます。

「未来のリーダーを育てるロータリー」のテーマのもと、インターアクトに関わる皆さまが全国からお集り下さいましたことは、準備を重ねて参りました関係者にとり大きな喜びであります。心から感謝申し上げます。

この機会に大いに語り合ってください、情報交換と親睦の場となりますことを願っております。

ロータリーでは、青少年奉仕を「育てる奉仕、共にする奉仕」とうたっております。

1962 年にアメリカ・フロリダ州メルボルン高校で産声をあげたインターアクトクラブは、現在世界 145 か国に 15000 を数えるクラブがあり、インターアクターの数は 35 万人にまで育ってまいりました。中学生、高校生の多感な時代に世界のインターアクターと交流を深め、異文化を学び国際理解を深めるとともに地元地域のニーズに応えるボランティア活動を通してリーダーシップを学ぶ素晴らしい機会が与えられています。

ロータリーの崇高な理念、精神を一人でも多くの若者たちに分かち合い、究極の世界平和を追い求める将来の素晴らしい人材を育てることは私たちに与えられた大きな役割のひとつであります。彼らは私たちが気が付かない素晴らしいアイデアを示してくれ、力強く行動してくれることでしょう。

私自身、高校生のころインターアクターでありました。当時、多くのロータリアンに人を大切にする心を教えて頂き、世界や地域の人々に手を差し伸べお手伝いができることの喜びを実感しています。

インターアクトクラブの顧問教諭の先生方にも衷心から感謝を申し上げます。インターアクターと学校の橋渡し役として、また彼らの相談役として、なくてはならない大きな存在です。そして、先生方からの貴重なお話、情報はロータリー関係者にとり学ぶことが多いものです。

ロータリーは、若い人々に向けてインターアクト、青少年交換、ライラセミナーなど多くの歴史あるプログラムを提唱しています。

インターアクターにインターアクトのみならず様々な青少年プログラムをご紹介ください。さらに大きな世界が広がることでしょう。そして、やがてはロータリーの門をたたいて、生涯ロータリーを楽しんでもらえることを期待しています。

今、国際ロータリーでは、若い人びとに大いに期待しています。明日のローターアクター、ロータリアンは私たちのすぐそばにいます。

私たちは、この若いインターアクターが、次なるロータリー世界を支えてくれると確信しています。

## 第11回全国インタラクティブ研究会を終えて

2023-24年度

国際ロータリー第2680地区ガバナー

**安行 英文**

(三田ロータリークラブ)



さて、このインタラクティブ全国研究会での1泊2日間は どうでしたでしょうか。

インタラクティブはやがて中学や高校を卒業していくわけですが、昨今、インタラクティブを取り巻く様々な環境は目まぐるしく変化しています。中でも国際的な視野で物事をみると、世界中ではまだまだ大変な状況におかれている人たちはたくさんいます。

その現実に対し、私たちはどう受け止め、何をできるかということ、我々インタラクティブと共に活動している大人たちが彼らに投げかけ、共通の理解をしなければならない時代となっています。

そんな中で、子供たちの周りには危機がたくさん潜在しており、これを今一度確認するための集まりが必要であるということが今回の目的の一つとしてありました。

次に国際的な関係を考えるうえで、日本と響き渡る心、「思いやる心」というものをもう一度考え直してみようと考えました。つまり「日本という方法」についてです。日本で初めて器に独自の「セット感覚」を持ち込んだのは古田織部でした。5客の向こう付けの文様が一見揃っているようでいて、よく見ると一つひとつが形も文様も違うというふうになっています。ところが、現在の日本はこれがうまくできなくなっている。世界のスタンダードに合わせて、何もかも同型・同質に揃えようとしすぎています。人に当てはめれば、みんな同じでなければならない、没個性化なんです。このように同型・同質にするのではなく、不揃いでありながら揃えていくのが日本流です。

だから、それぞれの個性があって、みんながそれを尊重していくことがとても大事だということですね。ひとり一人を尊重する心と思いやる心が世界を救うことが出来る。このことを今回お伝えすることができておれば汗顔の至りに存じます。何かと不行き届き、ご迷惑をおかけしたことと思いますが、何とぞロータリーの寛容の心でお許しいただきたく存じます。

何か今後の皆様の活動の一翼を担えればと報告書を作成いたしました。

どうぞご笑納いただければ幸いです。

# 全国インターアクト研究会を終えて 危機管理とファシリテーション

第 11 回全国インターアクト研究会  
地区実行委員長  
地区青少年奉仕・危機管理委員長

**黒田 建一**

(西宮イブニングロータリークラブ)



全国レベルの研究会においては通例となっている地区委員長会議は、2日目午前8時30分から開催されました。当地区実行委員会総務担当委員長白井良夫氏（伊丹RC）が議長となり、議題である次年度第12回全国インターアクト研究会開催地区決定の件が審議され、国際ロータリー第2600地区（長野）とすることが満場一致で決定されました。その後、RIJYEM（RIJYEMは現在、全国のロータリー青少年活動のプラットフォーム化を図っています）からインターアクトについて、恒常的な全国地区間の連絡体制をとることについての提案がありました。RIプログラムの内、ロータリー青少年交換とRYLAについては既に国内地区間の組織化が完了しています（青少年交換はRIJYEM、RYLAは全国RYLA連絡会）。インターアクトはインターアクトクラブと学校が関係しますから、全国組織をどの様に組織化するかという問題があります。地区間の情報交換は現在全国研究会での分科会や懇親会などで行われている状態ですが、継続的な課題などについては協議も難しく、危機管理の問題も念頭に置きますと、早晚何らかの地区間の連絡体制をとる必要がある様に思います。今年度は問題提起で終わっておりますが、今後も各地区で検討をお願い致したい課題であります。

# 危機管理とファシリテーション 資料

ファシリテーションと危機管理  
第11回全国インターア外研究会  
令和6年6月15日(土)  
於 神戸ポートピアホテル

地区危機管理委員長  
同青少年奉仕委員長  
西宮イブニングRC 黒田 建一

1

〔はじめに〕 ファシリテーションと危機管理

(1)ロータリー章典41.060.3.「RYLAファシリテーター」(2021.1決定)

① RYLAに関わるファシリテーターはセクシャルハラスメントおよび虐待防止、多様性、公平さ(インクルージョン)に関する研修を受けるものとする

②未成年者が参加するRYLAについては、ファシリテーターはRIの青少年保護方針とその地区の青少年保護方針に関する研修を受けるものとする

2

(2)ロータリー章典26.140.「行動規範」(2021.6決定)

ex. 青少年がかかわるハラスメントまたは虐待の申立はすべて、72時間以内にRIIに報告([youthprotection@rotary.org](mailto:youthprotection@rotary.org))しなければならない。

(3)問題点

① RYLAファシリテーターとは何か

② ファシリテーターと危機管理の関係

③ ロータリー章典の最近の動き

3

## 第1. ファシリテーション

1. ワークショップ(WS)とエンカウンターグループ(EG)

(1) T・グループ

1946年頃K・レビン(社会心理学者、「集団力学」)が教育関係者、ソーシャルワーカーのワークショップを指導

- ・10人位が郊外の研修施設などで1週間合宿生活
- ・テーマは定めない
- ・他者と関わり合う中で人間関係や自分自身のあり方 などを気づきや学びを得ることが目的

4

(2) ワークショップ

参加者が受け身ではなく、積極的に関わる研究、集会ポイントは

- ・ワークショップに先生はいない
- ・「お客さん」でいることはできない
- ・初めから決まった答えなどない
- ・頭が動き、身体も動く
- ・交流と笑いがある

(中野民夫「ワークショップ」13頁 岩波新書)

5

(3) WSとEGの関係

- ・EGもWSの一種
- ・WS、EG共にファシリテーターが重要な役割を果たす
- ・WSは具体的課題を持つ場合が多い
- EGは具体的課題を持たないベーシックEGが当初の在り方
- ・EGはC・ロジャーズによって独自の進化を遂げてきた

6

## 2. エンカウンターグループ（EG）

### （1）定義

- ①「自己理解や他者理解を深めるという個人の心理的成長を目的として、」
- ②「パーソンセンタード・アプローチ（PCA=心理療法の1つ）の基本的視座を持つ1～2人のファシリテーターと10人前後のメンバーが、」
- ③「集中的な時間の中で」
- ④「各人が自発的・創造的に相互作用を重ねつつ、安全・信頼の雰囲気を形成し、そこで起こる関係を体験しながら、率直に語りあい聴きあうこと」
- ⑤「を中心に展開するグループ経験である。」

7

7

### （2）テーマ、課題の有無

#### ① ベーシック（非構成的）EG

テーマ、課題が特に無い

例 ・ Tグループ ・ 2680地区RYLAセミナー

#### ② 構成的EG

テーマ、課題が有る

例 ・ 多くのワークショップ（経営企画、町おこしなど）

・ 北アイルランド紛争に関するEG（1973）

8

8

### （3）内容

#### ①目的 出会い

- ・ 自己との出会い＝自己理解
- ・ 他者との出会い＝他者理解
- ・ 自他との出会い＝自己理解、他者理解を積み重ねることにより、深く親密な関係を体験する。いわゆる「本当の意味でわかりあえた」「出会えた」という体験

9

11

#### ②ファシリテーター（「促進者」）

・ クライアント・メンバー自身に力があり、そこに寄り添う⇒リーダー、トレーナー、指導者ではなく（ファシリテーター）

・ ファシリテーターはメンバーの一員、メンバーとしても参加している

#### ③グループの構成

・ 1～2人のファシリテーター

複数のグループを複眼的に理解でき、また、相互にサポートしあえる

・ 10人前後のメンバー

複数のグループが並行の場合、全体で集まるコミュニティ・セッションが持たれる

10

12

#### ④スケジュール

- ・ 3日～4日間（宿泊を伴う）
- ・ 1.5時間～3時間のセッションを一日3回程度重ねる

#### ⑤グループのすすめ方

- ・ メンバーがみんなで決めてゆく
- ・ セッションにおける各メンバーの動きは自発性に任されている
- ・ セッションを重ねるなかで、グループに「安全・信頼」の雰囲気が形成され、自己理解や他者理解を深めるという個人の心理的成長や、自他との出会いといった体験が促進される

11

### （4）ファシリテーターの役割

- ①グループ全体を見る
- ②グループへの所属感を保証する
- ③攻撃された人を守る
- ④メンバー1人1人のベースを守る
- ⑤プロセスの展開に応じた柔軟な対応
- ⑥グループを無理に進めない

12

## (5) ファシリテーションとは

- ① 風土づくりの機能としての注意深く正確、敏感な傾聴
- ② ありのままのグループの受容
- ③ ありのままのメンバーの受容
- ④ メンバーに対する共感的理解
- ⑤ 自分の内部で起こっていることを信頼して動く
- ⑥ 自分の気持ちを伝えるというかたちでのフィードバックおよび対決
- ⑦ 自身も問題を抱えているときはそれを表明することも重要
- ⑧ 自発性が最も重要であり、あらかじめ計画されたワークは避ける
- ⑨ ファシリテーターからのグループ・プロセスの解説や注釈は避ける
- ⑩ メンバーの病的行動に対してもグループの持つ援助的潜在力を信頼する
- ⑪ 自発的な身体表現や身体接触を大事にする

13

13

## (6) ファシリテーションと ファシリテーターの歴史

- ① 1910年代 モレロ (オーストリア) 心理劇 — 監督 (director)
- ② 1910~20年代 スラブソン (ウイライナーアメリカ) 集団精神療法 — セラピスト
- ③ 1940年代 レヴィン (ドイツ→アメリカ) Tグループ — トレーナー
- ④ 1960年代 ロジャース (アメリカ) EG — ファシリテーター
- ⑤ 1970年代 会議F、グループF、ミーティングF
- ⑥ 2000年代 会議F 日本へ紹介

14

14

## (7) ファシリテーションの 実施に当たっての注意点

- ① 巧みなFはかえって人の主体性を弱くしてしまう可能性がある
- ② 大きな特権や力を持つファシリテーターはそのことに十分自覚的でなければならない。
- ③ Fの遂行を単純化し、形骸化させてしまう危険性がある
- ④ Fを会議効率化のノウハウと考えることなど
- ⑤ Fについての解説本への依存→方法のマニュアル依存
- ⑥ 解説本には基礎的枠組みの説明を欠き、ハウツーだけを伝えるに終わっているものが多い

15

15

## 3 EG、ファシリテーションと C. ロジャース

(1)

- ・PCAの発展過程におけるグループへの関心
  - ・シカゴ大でのカウンセラー養成WS
  - ・レヴィンのTグループ (人間関係トレーニングG) と併行
  - ・1960年代の人間性回復運動の一環として普及
    - 集中的グループ経験
- ※「人間性回復運動」科学技術の発展や都市化、組織の巨大化などによる人間疎外の状況の打開

16

16

## (2) C・ロジャースとは

アメリカの心理学者・心理療法家

- 1902年 アメリカ・イリノイ州オークパーク生
- 19年 ウィスコンシン大学卒
- 24年 ニューヨーク市ユニオン神学校
- 26年 コロンビア大学心理学専攻
- 45年 シカゴ大学教授 クライアント中心論
- 57年 ウィスコンシン大学教授
- 64年 西部行動科学研究所 EG論
- 70年 「エンカウンター・グループ」発刊
- 87年 逝去

17

17

## 4. PCA (パーソナル・センタード・アプローチ)

### (1) ロジャースの基本仮説

人間はそもそも 実現傾向を持っている。それはある種の人間関係(人間尊重の姿勢が貫かれた関係)でよりよく発揮される。

・実現傾向

いきてるものは、そもそも自分を維持、強化するために、もっている力を発展させようとする力があるということ

18

18

(2) ロジャーズの中核三原則

①一致 カウンセラー⇄クライアント

②無条件の積極的関心 (カ) → (ク)

③共感的理解 (カ) → (ク)

- ・PCAは従来型のセラピスト→患者への一方的関係を否定し、患者（クライアント）を中心として接する。

19

19

(無条件の積極的関心)

相手の意見や感情等の良し悪しの判断をせず、相手の存在そのものに積極的関心を持つこと。先入観なく虚心坦懐に傾聴する

(共感的理解)

相手の気持ちをあたかも相手を感じているが如く感情に彩られた世界を理解すること。しかし、所詮同感に過ぎないので、聞き手が理解したことを話し手に伝えて確認することが必要

(一致)

(無条件の積極的関心)をカウンセラー自身に向け、カウンセラー自身の感じていることに対して(共感的理解)を示すこと

20

20

## 第2. 危機管理

### 1. なぜ危機管理か？

- ・危機を問われる問題はいつも起きている
- ・ロータリーには無いというのは幻想である
- ・皆そのことを知りながら長い間黙認してきた
- ・しかし“された者”の沈黙の時代は終わった
- ・“した者”は“された者”への適切な対応を迫られている
- ・“された者”と“した者”との認識の違いを埋めること、そして認識の違いを生じさせないことが危機管理の大きな課題

21

21

### 2. 危機とは？

- ①事故 ②暴力 ③自然災害 ④政情不安
- ⑤伝染病の発生

Rotaryにおける危機管理問題はこれに留まるものではない

- ⑥ハラスメント ⑦会計問題 ⑧内部不和
- ⑨雇用問題 etc

22

22

### 3. そもそもロータリアンはどうあるべきか 「ロータリアン行動規範」(章典8.030.2.)

ロータリアンとして私は以下のように行動する

- 1)個人として、また事業において、高潔さと高い倫理基準をもって行動する。
- 4)ロータリーやほかのロータリアンの評判を落とすような言動は避ける
- 5)ロータリーの会合、行事、および活動においてハラスメントのない環境を維持することを支援し、ハラスメントの疑いがあれば報告し、ハラスメントを報告した人への報復が起こらないよう確認する

23

23

### 4 ハラスメント

#### (1)ハラスメントが生じる原因

ハラスメント加害者の主観的価値観と周りの価値観とのズレ

- ① 自分の善意、好意が相手方にとってもそうであるとは限らない ← 人間関係を関係性として捉えない。
- ② 倫理観の変化が頭ではわかっている、日常生活の会話や行動では昔習得した知識がそのまま表に出る — バイアス(無意識の偏見)  
バイアスの自覚がない為加害者の弁明は一方的主張となり説得力がない
- ③ 価値観の判断がズレていれば単なる犯罪・嫌がらせに過ぎない

24

24

(2) ハラスメントの判断

① 外観、動作、言葉

言語表現はヴォキャブラリーとレトリックによってカバーできる

- ② 内心 外観から推定して判断されることもある
- ③ それ迄の日常的な言動も判断に影響する

(3) ハラスメントの結果

① RIはハラスメントに対しては厳格

- ② ハラスメントは加害者だけの問題ではない  
クラブ、地区だけでなくロータリー全体に影響は及ぶ

25

25

5. 青少年を中心とするハラスメントの関連規範

(1) 「青少年と接する際の行動規範に関する声明」

(Statement of Conduct for Working With Youth 章典2.120.1.(Jun. 2002~Oct. 2019))

国際ロータリーは、ロータリーの活動に参加する全ての青少年のために安全な環境をつくり、これを維持するよう努める。ロータリアン、そのパートナー、その他のボランティアは、接する児童および青少年の安全を考え、肉体的、性的、あるいは心理的な虐待から身の安全を守るため、最善を尽くさなければならない。

26

26

(2) 「虐待およびハラスメントの防止と報告手続き」

章典2.120.2.(Jan 2020)

1. 「RIは、虐待およびハラスメントに対して、いかなる違反も法規適用する方針(ゼロ容認方針)を有する。」
2. ガバナーエレクトの青少年保護に関する研修義務(ガバナー就任以前)
3. 地区の青少年保護方法の立案と実施義務
4. 72時間ルール
5. 申立についてゼロ容認方針に則り、法執行機関に報告する義務(must)
6. 性的虐待、ハラスメント申立があった場合、第三者による徹底した調査を行う義務がある(must)
7. 被疑者となったロータリー青少年プログラム関与の成人は問題解決迄青少年との接触は禁止(must)

27

27

8. ①容疑を認め、あるいは有罪とされ、あるいは被疑事実に関与したと認められる全てのロータリアンについて、クラブはその会員の身分を終結させなければならない(must)

②容疑を認め、あるいは有罪とされ、あるいは被疑事実に関与したと認められる非ロータリアンについては、ロータリーが関与することを禁じられる

③クラブは性的虐待、ハラスメントに関わった者を会員として認めるべきではない(may not)

④RI理事会は、クラブが故意に会員の身分終結措置をしなかった場合、当該会員の身分終結措置を併せて、方針の順守を怠ったことを理由として、クラブの加盟を終結する措置を講じる

28

28

(3) 青少年の旅行および宿泊 章典2.120.3.(Dec.2019)

クラブと地区のプログラムや活動で、未成年者が地元地域の外に旅行や宿泊するとき、青少年保護方針と書面による手続きを作成し、維持し、またこれを順守しなければならない。

・青少年交換の旅行は章典41.060.節「青少年交換」に概説されている方法に準拠する

・クラブと地区の義務の具体的内容

- ① 青少年参加者の保護者から事前に書面で許可を得る (Shall)
- ② 保護者に対して、出発前にプログラムの詳細、開催場所、旅行目的、宿泊設備、プログラム参加者への連絡先の告知 (shall)

29

29

2.120.3. 続き

- ③ 未成年者が国外または自宅から150マイル(≒241km)以上離れた場所に旅行する場合、未成年者の保護者が旅行保険を掛ける様に義務づけるべきである(should)

※インターアクト 41.010.3.と同趣旨

- (a) 補償内容「医療(母国を離れる旅行の場合)、緊急医療移送、遺体の本国送還、法的責任を含」むもの
- (b) 補償額「活動または行事を主催するクラブまたは地区にとって満足なもの」
- (c) 補償期間「未成年者が自宅を出発し、自宅に帰るまで」とする

30

30

4 「会合、行事または活動におけるハラスメントのない環境」章典26.120.(Dec.2019,Jan.2020)

(1) 意義

- ・旧2.120.(2017年6月理事会決定)を削除し、第2章「ロータリークラブ」から第4章「管理運営」へ移動
- ・ハラスメントを含む不適切な行動が生じた場合の、クラブ、地区、ゾーン、RI理事会の義務とペナルティーを規定
- ・被害者の対象は青少年に限られない
- ・クラブレベルでの危機管理体制確立が必要

31

31

(2) 「ハラスメント」の定義

ハラスメントとは大まかに定義すると、個人またはグループを、あらゆる特性(年齢、民族、人種、肌の色、能力、宗教、社会経済的地位、文化、性別、性的指向、または性自認)に基づいて、言葉であれ身体的であれ、中傷、侮辱、または攻撃する言動を指す。

32

32

(3) 被害者から申立があった場合の対応と不服

ア 申立についての判断主体

- ・クラブ 理事会 → ガバナー
- ・地区 ガバナーorガバナーに任命された委員会 → RI事務総長
- ・ゾーン RI理事orRI理事に任命された委員会 → RI会長

イ 回答期限

妥当な期間(通常は1ヵ月)

33

33

(4) ハラスメントの場合の対応

ア 申立があった場合

① 青少年の場合

- a 章典2.120.2.(虐待およびハラスメントの防止と報告手続)による  
特に72時間ルールに注意
- b 青少年の年齢は定められていない
- c 申立の内容が不明確な場合は判断を慎重に

34

34

② 青少年以外の場合

- a 章典26.120.(会合、行事または活動におけるハラスメントのない環境)による
- b 72時間ルールはないが申し立てに対する判断は1ヶ月以内
- c 申立者の納得が行かない場合の措置に注意
- d 対象者は、会員、プログラム参加者だけではなく、事務職員なども含まれることを念頭に置く

35

35

イ 申立がなされたときの注意点

- ① どうすればよいか分からないときは地区、RIJYEMに報告、相談する
- ② 判断は申し立てられた側に不利な観点からも行う。有利な観点からの判断は身びいきで終わりにやすい
- ③ 72時間ルールの適用がある場合、全く時間的余裕は無い
- ④ 申立てする側は、申立を受けたクラブや地区の動きとは関係なく、警察と相談し、地区、RIと協議をしているものと想定する必要がある(被害者の方は状況がシリアスである)

36

36

## 5. 行動規範(26.140. 2021.6)

ロータリーの中核的価値観

- ・親睦、高潔性、多様性、奉仕、リーダーシップ
- ・この行動規範はロータリー中核的価値観を反映したもの
- ・ロータリアンであることに伴う責任を説明したもの
- ・ロータリー会員は、この規範を守り、発展させてゆくことに取り組む

37

37

・ロータリアン等は①互いに、②プログラム参加者等、地域社会の人と接する際、この行動規範を身をもって示すことが求められる。

・この行動規範は、クラブ、地区等をはじめ、会員がロータリーを代表する全ての場、MY ROYARYとソーシャルメディアにおいて適用される。

38

38

### (期待事項)

全てのクラブ会員及びロータリープログラムの参加者等はこの行動規範を遵守し、他者に配慮し、誰もが尊重され大切にされる協力的かつ前向きで健全な環境に寄与することが求められる。

39

39

### 〈他者を尊重する言葉を使う〉

(a) 初対面の人に対し

(i) 自己紹介をし、(ii) 自分の希望する指示代名詞(he、She等)を説明する

(iii) 相手方に対しては、言い易い名ではなく、本人の希望する名で呼ぶ

(b) 多数の人の前で話すときは、中性的な言葉を使う。

40

40

(c) 相手方への理解を深める為にアクティブリスニング(積極的傾聴)を実践する

※アクティブリスニングの三原則

①自己一致

②共感的理解

③無条件の肯定的配慮

C.ロジャーズ

PCA3原則

ファシリテーションの大前提

単に積極的に傾聴する、と考えてはならない

41

41

(d) 言葉遣いは地域に順応させ、その遣い方が文化によっては容認されない場合のあることを意識する

(e) 文化によっては翻訳できない俗語、隠語、慣用句の使用を避け、使用した言葉の意味を丁寧に説明をしたりして、ロータリーの多様な文化と言語を共有する

(f) 全ての人理解できない可能性のある略語や専門用語は避ける

42

42

(g)相手の文化的背景、信仰、性的指向、ジェンダー等の特性に関心があるときは、その情報を共有することに抵抗がないかを確認する。そのトピックが会話と関連が無い時は尋ねるのを控える

(h)世代間の対話を促す雰囲気高め、人を年齢で言い表すのを避ける

43

43

〈サポートを示す〉

(a)他者の味方、擁護者となり、必要な場合には介入する心構えを持つ

(b)不適切な行為を見たり、聞いたりしたときは、その影響を受けた人をサポートする形で、その行為に対応する

(c)ロータリー会員は、この行動規範を守り、行動規範に沿った文化をクラブに築き、問題が起きたときは行動規範に沿って対応する

44

44

〈温かく迎え入れるインクルーシブな環境を助長する〉

(a)(i)バリアフリー会場、(ii)同時通訳、(iii)字幕、(iv)筆記、(v)その他のリソースを必要に応じて提供して、対面、オンライン、いずれの方法による会合、行事、行動に全ての会員と参加者が全面的に参加できるようにする

(b)クラブやプログラムの慣習を見直し、特定のグループに対する侮辱的または排他的な活動は中止または変更する

45

45

(c)暖かく迎える環境をつくり、対話、プロジェクト、行事に全ての人を含める

(d)アイコンタクト、表情、口調、パーソナルスペース、ジェスチャー、体勢などの非言語的なコミュニケーションにできるだけ注意を払い、そうした注意がいかに人と接したり、共感する能力に影響を与えるかを意識する

46

46

(e)宗教における重要な行事の日を知っておき、その行事に従っている人々が参加できる様に配慮して行事や活動の予定を組む

(f)人の食事など健康上の制限について知っておく

(g)全ての人にクラブ、地区でリーダー的役割を担う機会を開く、地域社会のパートナー団体と関り合う

47

47

〈多様性を重んじる〉

(a)障害者に対するクラブでの認識、理解、受容を深める

(b)単一の文化、宗教と関連する奉仕プロジェクト、行事だけを実施することなく、多様な行事等を行う

(c)多様性と関連する重要な日を認識し、尊重する

(d)特定の人々を固定概念に当てはめたり、からかったりしない

※ステレオタイプ

(e)異なるジェンダーを認識し、尊重する

48

48

〈行動規範にかかわる懸念を報告する〉

この行動規範に反する行為があったと感じた場合、Eメールで連絡すること(DEL. Inquiries@rotary.org)

※ If you feel someone conducts behavior that goes against the code of conduct, email ...

49

49

〈成人ハラスメントの問題を報告する〉

現在、ロータリーは、ロータリー章典に従い、会合、行事、活動においてロータリアン等がかかわるハラスメントの問題を報告するために以下の方針を定めている  
(a)ロータリーはいかなる形のハラスメントもない環境を維持することに力を注いでいるーハラスメント定義 章典26.120.

50

50

成人にかかわる(involve)ハラスメントの申立の通知を受けたとき、あるいはハラスメントを受けたと感じたとき(you feel)の報告先

- ①身の安全を脅かされたと感じた場合ー警察
- ②クラブ役員(会長、幹事)地区リーダー(ガバナー、エレクト)、ゾーンリーダー(RI理事)
- ③RIのクラブ地区支援室(cds@rotary.org)
- ④青少年(young people)のハラスメント、虐待の申立は72時間以内にRIへ報告しなければならない(youthprotection@rotary.org)

51

51

## 6 危機管理問題に対応するに当たって

- ・「多分起こらないだろう」、「滅多には起こらないだろう」という態度は避ける
- ・「想定外」は「想定しない」、「想定する必要がない」から生じる
- ・危機管理問題が生じないのは単にその発生を知らないだけかもしれない
- ・生じた問題の解決済みは、そう思っているだけかもしれない
- ・危機状態が長期継続する場合には状況に応じた迅速かつ柔軟な対応が必要となる  
問題となるのは判断基準をどの様に考えるかである

52

52

御清聴ありがとうございました。

53

53

# IAC 海外旅行保険等について

RIJYEM 事務統括・保険管理 津留 起夫 (RID2790・市原 RC)



## 2023-2024年度 短期海外旅行保険OB1型のお知らせ

©2024 RIJYEM ALL Rights Reserved

4分40秒



## 短期海外旅行保険新設

★派遣生徒

★引率者:ロータリアン・ローターアクター  
顧問教師・ボランティア等

プログラム

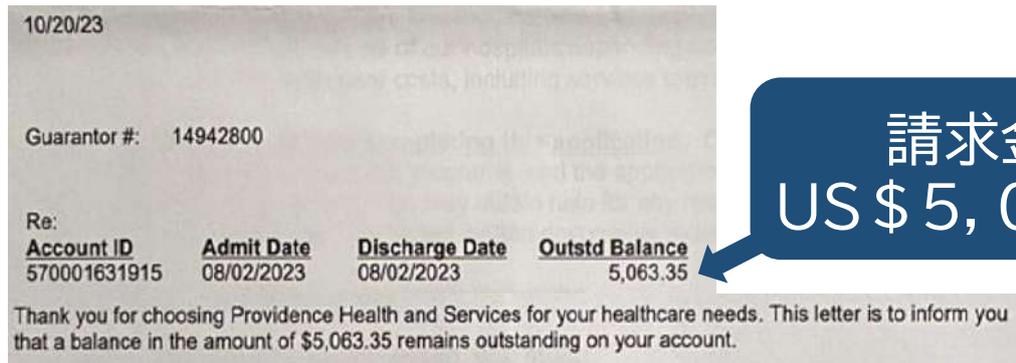
- 青少年交換
- インターアクト
- RYLA
- 友好・姉妹クラブ間青少年派遣など

# 犬のアレルギー



# 既往症

保険補償されない



請求金額  
US\$ 5,063.---

青少年交換短期海外派遣OBS、インターアクト・RYLA・クラブ青少年派遣 海外研修旅行保険			
海外旅行保険 (OB1型)		旅行事故対策費用保険 (安全退避費用特約セット)	
補償項目	保険金額	補償項目	保険金額
傷害死亡	1,000万円	基本契約	100万円
傷害後遺障害	1,000万円		
治療・救援費用	無制限		
疾病応急治療・救援費用	300万円		
個人賠償責任	1億円		
携行品補償	10万円		
航空機遅延費用	2万円	特約	500万円
安全退避費用			

保険料金計算表	
出発日	2023年7月6日 日付を入れる
帰国日	2023年7月20日 日付を入れる
保険期間	15 (日)
保険料金	10,343 (円)

### 注意事項

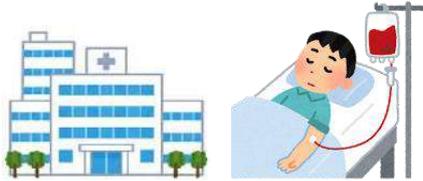
- 31日以上には対応していません。
- 引率者の年齢が70歳以上の場合、RIJYEMにお問合せ下さい

### 短期派遣用海外旅行保険 (OB1型)

- 自然災害補償: 500万円
- 既往症 (アレルギー等): 300万円



病気・ケガで入院



OK

補償

NG

保護者



宿泊費



交通費



引率者

## Q & A



Q1: 青少年を海外に派遣する場合、クラブによっては、会員の会社で扱う保険を掛ける場合もあるのですが、OB1型の付保は必須でしょうか？

A1: はい、OB1型は必須となります。

他の保険会社で発売している海外旅行保険でも、全く問題ありませんが、「自然災害による緊急搬送」に対応する補償(500万円)が付いていることが必須となります。

C1: この「自然災害による緊急搬送」は、ロータリー章典(41.050.12.(g))に規定されております。RIJYEM調べでは、通常の海外旅行保険では、この補償項目と500万円の補償金額が付いているものは、市場には出ていないようです。



## Q &A



Q2:年齢制限は、ありますか？

A2:OB1型には、年齢制限はありません。

C2:ただし、70歳以上の場合には、少し高くなります。

Q3:台湾の姉妹RCクラブの行事に行きます。参加者は、ロータリアンとローターアクトですが、一緒に保険に加入できますか？

A3:もちろん、出来ます。



Rotary  **RIJYEM Platform**



# 2023-2024年度

## 短期海外旅行保険OB1型のお知らせ



Rotary

The  
Rotary  
Foundation



Rotaract



Interact



**RYLA**

rotary  
youth  
exchange

Rotary 

©2023 RIJYEM ALL Rights Reserved  
©2024 RIJYEM ALL Rights Reserved

# パネルディスカッション 未来のリーダーに届けるべき指導者像

◆ 当日の様子は、以下のリンクまたはQRコードより動画にてご視聴いただけます。

動画：<https://youtu.be/sMJbjusUnGQ>



賀川豊彦氏の弱者の側に立った「友愛の経済学」という理念について今井鎮雄氏のYMCAとロータリー、そして福祉コミュニティ、深川純一氏のロータリー哲学、その職業倫理と人材育成以上の先達の思想をたどりながら、現代社会に携わるうえで、何が求められているのか、インターアクトの生徒たちに対する指導者としての心構えなどを明らかにしていきたい。「共に生きる社会」とはどのようなものなのか。皆様とともに考えたい。

## 馬場 一郎

社会福祉法人イエス団理事・賀川記念館館長  
生活協同組合コープこうべ理事長

大学卒業後、銀行に就職。1984年神戸YMCAに転職。野外活動、進学教育、学習障がい児クラス、会員活動等を担当。  
2003年賀川豊彦が設立した社会福祉法人・学校法人イエス団に転職。事務局長を経て保育園園長、児童館館長、児童発達支援事業管理者、幼保連携型認定こども園園長、隣保館館長等を歴任。  
現在は社会福祉法人イエス団理事、地域福祉事業・福祉教育事業を行う賀川記念館（隣保館）館長と生活協同組合コープこうべ理事長としての役割を担う。



## 安行 英文（三田ロータリークラブ）

2023-24年度 国際ロータリー第2680地区ガバナー

1994年三田ロータリークラブ入会  
(独国立法)兵庫中央病院受託研究審査委員  
(公財)神戸YMCA 監事  
(社福)神戸いのちの電話評議委員  
(社福)ひょうご障害福祉事業協会(はんしん自立の家・はりま自立の家・しろう自立の家) 理事  
(社福)神戸保育会(神戸保育園・神楽こども園・元町キッズルーム)第三者委員  
曹洞宗 観世寺・興聖寺住職  
ロータリー歴  
地区国際奉仕委員長  
2023-24年度 国際ロータリー第2680地区ガバナー

## 吉岡 博忠（伊丹ロータリークラブ）

2021-22年度 国際ロータリー第2680地区ガバナー

1990年4月 伊丹ロータリークラブ入会  
2004-05年 伊丹ロータリークラブ会長  
2014-18年 国際奉仕VTT小委員長  
2016-17年 阪神第1グループガバナー補佐  
2018-19年 職業奉仕委員長  
2021-22年 第2680地区ガバナー  
2022-24年 会員維持増強及び公共イメージ委員会アドバイザー  
2023年 第2800地区RI会長代理(山形)  
2023-24年 地区ロータリー財団委員長



## 当地区の取り組み ～環境紙芝居～

ガバナーノミニー  
環境の保護小委員会  
委員長 城 守  
(姫路ロータリークラブ)



環境の紙芝居は、この地区大会で最優秀賞作品を表彰し、その作品を作者自ら上演するという構想の下、2022-23 年度当時ガバナーエレクトであった安行英文ガバナーから当小委員会に要請された複数年度にかかる事業です。

事業の目的は、就学前の子どもたちに環境の大切さを伝えることです。クラブの青少年奉仕委員会、ロータリーアクトクラブ、インターアクトクラブ、学友の方々のご協力により、保育園や幼稚園などで最優秀賞作品の紙芝居を上演し、その際にヒマワリの種を手渡し子どもたちに育ててもらいます。

当初は環境の保存に大きな役割を担っている蜂や蝶、鳥などの「花粉媒介者（ポリネーターPollinator）」のためにその地域に自生している草花の種を贈る予定でしたが、2022 年 2 月ロシアによるウクライナ軍事侵攻が始まり多くの農地に被害が出ている惨状を目の当たりにして、ウクライナの平和を願いウクライナの国花であるヒマワリの種に変更することにしました。ウクライナは世界のヒマワリ油の約 50%を生産していましたが、この戦禍により大きなダメージを受けています。

こうして子どもたちに育てられたヒマワリの種を各クラブに集めて提供していただき、この種をアジアルートでウクライナまで各国のロータリーアクト自ら手渡していくというものです。この遠大な計画は次年度にも引き継いでいかれる予定です。

最優秀賞受賞作品は、

…インターアクトクラブ部門… 【わたりどりのたび】

滝川中学・高等学校

…ロータリーアクト・各学友部門… 【村人たちと緑の巨人】

神戸ロータリーアクトクラブ

地区大会では、最優秀賞トロフィーの授与後、滝川中学・高等学校からは永原麗雅さん、神戸ロータリーアクトクラブからは中垣迅人さんによる語り聞かせの熱演をしていただきましたが、その秀逸な作品内容と卓越した上演に会場から大きな拍手が沸き起こりました。

この二つの最優秀賞作品は、地区内のロータリークラブ、ロータリーアクトクラブ、インターアクトクラブ、各学友にヒマワリの種と一緒に配布し、地域の保育園・幼稚園児などに上演していただくよう願っています。特にインターアクトクラブの活動の一つとして取り組んでいただくのを期待しています。

環境の紙芝居 最優秀賞受賞作 インターアクトクラブ部門  
【わたりどりのたび】 滝川中学・高等学校

1



「わたりどりのたび」

あるとき、渡り鳥さんは、旅に出ることにしました。

2



ある日、渡り鳥さんは、海の近くを飛んでいました。

その時、渡り鳥さんが、  
砂浜の何かキラキラしたものに気が付きました。

「キラキラしている。なんだろう？」

3



渡り鳥さんが降りて近づいてみると、  
それはペットボトルなどのゴミでした。

すると、どこからともなく、声がかして  
きました。

「タスケテ…タスケテ…」

4



渡り鳥さんが声のするほうへ向かうと、ペットボトルのゴミの中に、カニさんがいました。

「中に入って遊んでいたら、出られなくなっちゃったんだ。たすけてよ。」

と、カニさんが言いました。渡り鳥さんは、ペットボトルに穴をあけて、カニさんを助けてあげました。

5

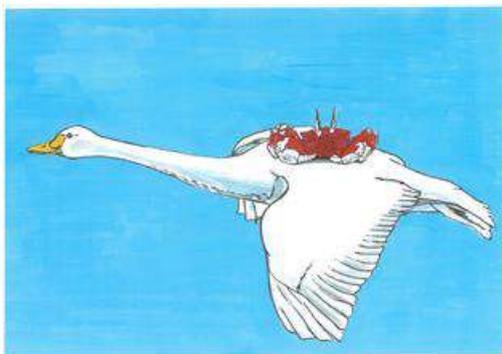


「本当にありがとう。僕も、何か手伝うことができるかもしれないから、旅に連れて行ってよ。」

とカニさんは言いました。

「じゃあ、僕の背中に乗りなよ。」と、渡り鳥さんは言いました。

6



こうして、渡り鳥さんは、カニさんと一緒に旅を続けました。

7



10

しばらく飛んでいると、陸が見えてきました。

渡り鳥さんとカニさんは、ここで少し休むことにしました。

8



11

「ここは、釣り人が多いね。」とカニさんは言いました。

「そうだね。あと、ここも、ゴミがたくさんあるね。」と渡り鳥さんは言いました。

しばらく二人が休んでいると、小さな声が聞こえてきました。

「誰かいませんか？誰か～。」

9



12

二人は、声のする方に行ってみました。そこには、釣り糸が絡まっているカメさんがいました。

「釣り糸が、体に絡まって、動けなくなっちゃったんだ。」

とカメさんは言いました。

カニさんは、はさみを使って釣り糸を切って、カメさんを助けてあげました。

「本当にありがとう。

僕の友達のカメさんも困っていたんだ。

カメさんを助けるのを手伝ってくれない？」

とカメさんは言いました。

10



カモメさんの言うところに、三人で向かってみると、

そこには、お菓子の袋が引っ掛かっているカメさんがいました。

「美味しいにおいがして、袋の中に入ったら、袋が外れなくなっちゃったんだ。」

とカメさんは言いました。

三人は、協力して助けてあげました。

11



「ほかにも、困っている動物がいるかもしれない。

みんなで助けに行こう。」

と、四人は一緒に、ほかの困っている動物を助けに、旅を続けました。

12

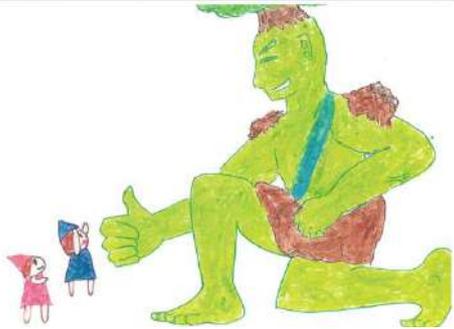


ふと、渡り鳥さんは、思いました。

「どうしたら、みんなが困らないで、安全に生きていけるだろう？」

おしまい

# ローターアクトクラブ・各学友部門 【村人たちと緑の巨人】神戸ローターアクトクラブ

<p>1</p> 	<p>ここは、とある小さな村。 ここでは、ずっと昔から、巨人と村人たちが一緒に暮らしていました。 巨人は、とーっても大きくて、とーっても力持ち。 頭に生えた大きな木。胸に流れるきれいな川。 肩にそびえる大きな火山。体を覆うふかふかの草原。 どれも巨人の自慢です。</p>
<p>2</p> 	<p>巨人は、村人たちが大好きです。 巨人が、腕にフンッと力を入れると、自慢の火山からおいしい食べ物がどんどん飛び出してきました。 巨人は、大好きな村人たちのために、食べ物を分けてあげました。</p> <p>「ほら、みんな、おいしいごはんだよ！ いっぱいお食べ！」</p> <p>村人たちも、強くて優しい巨人が大好きです。 「やったー！僕の大好きなステーキだー！」 「巨人さんのくれるご飯はいつもおいしいね。 私たち、巨人さんがだーいすき。」</p>
<p>3</p> 	<p>巨人が出してくれるご飯は、とってもおいしくて、村人たちは、いつもにこにこ。 あまりのおいしさに、村人たちは、食べても食べてもまだまだ食べたくなくなってしまいます。 「ねえねえ、巨人さん。ぼく、まだまだおいしいごはんが食べたいよ。もっと食べ物をちょうだい。」</p> <p>「いいよいいよ。もっとたくさん食べ物を出してあげよう。」 「ねえねえ。私にもちょうだい。」 「僕も、まだ食べたいんだ。」</p> <p>優しい巨人は断りません。 「いいよいいよ、どんどん出してあげるからね。」</p> <p>けれど、あれ、巨人は、なんだか苦しそう。</p>

5



こうして、どんどん食べ物を出し続けた巨人は、だんだんとひよろひよろ、細くなっていきました。

頭の大きな木は、ぽっきりと折れ、キレイだった川はどろどろ、自慢の火山は、ぷすぷすとくすぶるだけ。

体を覆う草原には、ごみが散らかっています。巨人は、ついに動けなくなって、倒れてしまいました。

倒れてしまった巨人は、食べ物が出せません。あれだけあったおいしいごはんも無くなり、村人たちは、おなかをすかせてしまいました。

「おなかがすいたよう。」  
「巨人さん、どうしたの？どこか痛いの？」  
巨人はかすれた声で答えます。

「食べ物を出しすぎちゃって、力が入らないんだ。みんな、ごめんね・・・」

6



村人たちは、巨人に、食べ物もらいすぎたことを後悔しました。

「僕たちが食べ物もらいすぎちゃったせいだ。どうしよう。悲しいよう。」

「私たちが巨人さんを助けてあげられないかなあ。」

「前は、あんなにきれいだった巨人さんが、すごく汚れちゃっているね。そうだ！巨人さんの体をきれいにしてあげれば元気になってくれるんじゃないかな。」

「そうだ！それがいい！」

7



村人たちは、巨人の体をきれいにしてあげることにしました。

草原ではごみを拾い、川をきれいに掃除します。

「巨人さん、元気になって。」  
みんな一生懸命に、巨人さんを元気にするために働きました。



村人たちが、力を合わせて掃除をしたおかげで、きれいになった巨人さんは、みるみる元気を取り戻しました。

「ありがとうみんな。みんなが僕の体をきれいにしてくれたおかげで、元気になったよ。」

「巨人さん、今までごめんね。僕たちは巨人さんから食べ物をもらうだけじゃなくて、お返しをするべきだったんだ。これからは、巨人さんから食べ物をもらった分、体をきれいにしてあげるね。」

巨人は、そんな村人たちの優しい気持ちが嬉しくて、今までより、より一層おいしい食べ物をたくさんみんなに、ふるまいました。

そうして、巨人と村人は、お互いを支えあいながら未永く、一緒に暮らしました。

めでたしめでたし。

そういえば  
この村と巨人には名前があるんだ。この村の名前は「地球」。  
この巨人の名前は、「自然」と言うんだって。

おーしまい。

## 第1分科会 インターアクトの国際理解と社会奉仕活動



リーダー 安行 英文

■1994年三田ロータリークラブ入会

■プロフィール

(独国立法)兵庫中央病院受託研究審査委員

(公財)神戸YMCA 監事

(社福)神戸いのちの電話評議委員

(社福)ひょうご障害福祉事業協会(はんしん自立の家・はりま自立の家・しそ自立の家) 理事

(社福)神戸保育会(神戸保育園・神楽こども園・元町キッズルーム) 第三者委員

曹洞宗 観世寺・興聖寺住職

民生児童委員(21年)・人権擁護委員(9年)

■ロータリー歴

地区国際奉仕委員長

2023-24年度 国際ロータリー第2680地区ガバナー

### 【分科会のご紹介】

国際理解を伴った社会奉仕活動には長期の計画とそのための親和性のあるプログラムをどう組み合わせていくかが問われる。

単独のインターアクトクラブや提唱クラブおよび地区委員会の横のネットワークをどう結びつけるか、総合マネジメントとしての役割の重要さ。

分科会では当地区の取り組み(紙芝居と国際貢献の結びつきを軸に説明)あるパーソナリティは、新たな文化に出会ったとき、これを吸収してそのパーソナリティを発展させていくことができるが、別のパーソナリティはこの変化に対応できず、自らのパーソナリティを変容し崩壊させることがある。したがって青少年たちに異なった価値体系の価値と文化の受容を促すためには多くの触れあいの交流ネットワークづくりが必要であると思われる。このことから国際的なネットワークをどう構築するかを示唆も考える。

### 【分科会報告】

まず、現在の我々が直面している世界の状況について概略的に説明を行った。

それは世界は、食料を満載し安全装置を完備した豪華客船が十分な乗船スペースを残しながら航海している。(客船の内部は1等から4等まで区分されている)、このような豪華客船数隻のまわりには、中型船や小型船のみならず、ボートも航海している。さらに多くの人々が溺れかかりながら泳いでいる。そして毎日5万人くらいの人々が溺れて死んでいく。豪華客船からは時々まわりの船や泳いでいる人に食料や必要な物資が投げられる一方で、客船で毎晩行われるパーティで余ったご馳走は海に捨てられる。溺れている人以上の空き定員がある中で、全員を救うか、部分的に救うか、それとも誰も救わないかという選択に直面しているのが、私たちの地球の現状なのである。さらに、検討しなければならないことがある。第1に、現在の状況を余力をもった豪華客船と泳いでいる人

とたとえることが正しくても、もし客船がその余力を使って泳いでいる人を救出すれば、将来、客船のキャパを上回る人々が誕生し、やがて客船は沈没するかもしれない。第2に客船に救い上げた人々に客船で毎日提供されているのと同じサービスを提供すれば、やがて客船の食料はすべて消費され客船内の全ての人々が飢えるかもしれない。第2の問題は単に貧困と飢餓だけの問題ではない。地球上の80億人全てが、現在、先進国が享受しているのと同等の生活をしたならば、地球環境が回復不可能なまでに破壊されるということも、含まれるのだ。つまり、将来予測を踏まえて、現時点で救うか救わないかという選択がされねばならないということだ。

第1分科会では、3班に分かれて以下のようなテーマで話し合っていました。

- ①将来の危険を回避するために、彼女ら／彼らを救わないことは認められるのだろうか
- ②貧困の放置は罪か
- ③私のものは私のものか(自分で得た利益は、どう使おうと自分で使う所有権がある)、この直感は正しいか

以上の課題を話し合うことで、遠く離れていても、同じように援助の手を差し伸べることの大切さは、違いがないということ、さらに見て見ぬふりはやはり罪悪感があるのではないか、あるいは自分が所有していても様々な過程を経て今ここにあるのだが、実はその中身を見ると本当に自分が所有しているのかどうか疑問をもってもらい、討論をしていただいた。

あらためて、国際理解が自分にとって他人事のような感覚にならないことを第1分科会で話し合っていました。

また、当地区での平和のための取り組み事例として3年間にわたるみつばちプロジェクトから、環境から国際平和への「環境の紙芝居コンテスト」とひまわりの種、ローターアクトとのウクライナまでの支援ルート「アジアルート」の構築の話で終わりました。



皆さんで話し合っていたきたいこと



**議題**

- ① 将来の危険を回避するために、彼女ら／彼らを救わないことは認められるのだろうか
- ② 貧困の放置は罪か
- ③ 私のものは私のものか(自分で得た利益は、どう使おうと自分で使う所有権がある)、この直感は正しいか

3

平和のための取り組み事例

国際ロータリー第2680地区  
3年間にわたる国際理解と社会奉仕

環境から国際平和へ



4

2680地区での取り組み



ロータリーアクトとの取り組み      地区環境の保護委員会との連携

- 2021-22年度 (吉岡ガバナー)
  - 2021年9月12日 RID2820地区の世界ロータリー奉仕デーへの参加要請
  - 2021年9月 第1回「環境」に関するアンケート実施
  - 2021年12月 安行DGNが地区内RACへ、環境へのミツバチの重要性に対する啓発活動を進める
- 2022-23年度 (阪上ガバナー)
  - 2022年1月 安行DGNが全国ロータリーアクト研修会で発表予定のみつばちプロジェクトを説明、協力要請
  - 2022年3月 全国ロータリーアクト研修会で当地区RACがみつばちプロジェクトを発表
  - 2022-23年度 (阪上ガバナー)
    - 2022年8月 安行DGNが地区代表とみつばち勉強会の講師京都産業大学環境学専攻客員教授
    - 2022年8月 委員会にて㈱一成の木下社長からテーマ「自然環境調査から見えてきたもの」講話
    - 2022年12月 みつばち勉強会開催
    - 2023年1月 みつばちプロジェクトを地区RAに引き継ぎ、ロータリーから環境への取り組みを考えたため「環境倫理入門」を教材として執筆者の一人である中原佳子委員を講師として研究

5

ロータリーアクトとの取り組み      地区環境の保護委員会との連携

2021-22年度 (吉岡ガバナー)

- 2021年9月12日 RID2820の世界ロータリー奉仕デーへの参加要請
- 2021年9月 第1回「環境」に関するアンケート実施
- 2021年12月 安行DGNが地区内RACへ、環境へのミツバチの重要性に対する啓発活動を進める
- 2022年1月 安行DGNから全国ロータリーアクト研修会で発表予定のみつばちプロジェクトを説明、協力要請
- 2022年3月 全国ロータリーアクト研修会で当地区RACがみつばちプロジェクトを提案

2022-23年度 (阪上ガバナー)

- 2022年8月 安行DGN、阪本渚子RA地区代表とみつばち勉強会の講師京都産業大学高橋純一准教授を訪問
- 2022年9月 委員会にて㈱一成の木下社長からテーマ「自然環境調査から見えてきたもの」講話
- 2022年12月 みつばち勉強会開催
- 2023年1月 みつばちプロジェクトを地区RAに引き継ぎロータリーらしい環境への取り組みを考えるため「環境倫理入門」を教材として執筆者の一人である中原佳子委員を講師として研究

2680地区での取り組み



インター・ロータリーアクトとの紙芝居      地区環境の保護委員会との連携

- 環境の紙芝居の製作を受けて各インターアクトクラブが独自のアイデアで紙芝居を作成
- 地区大会発表からの取り組みの説明
- ひまわりの種の意味
- 保育園・幼稚園への地域奉仕
- アジア・ルートの意義
- 平和への取り組みで国際理解へ

- 委員会が主体となり、アクト・インター・学友・財団・米山に環境の紙芝居の配布を依頼、発送
- 各地の保育園・幼稚園に配布の依頼・発送
- 各クラブに優秀作品とひまわりの種を配布
- 各地の保育園・幼稚園から紙芝居の配布を多数要望が殺到
- ひまわりの種とともに配布・次年度へ継続

6

インター・ロータリーアクトとの紙芝居      地区環境の保護委員会との連携

- 環境の紙芝居の応募を受けて各インターアクトクラブが独自のアイデアで紙芝居を作成
- 地区大会発表からの取り組みの説明
- ひまわりの種の意味
- 保育園・幼稚園への地域奉仕
- アジア・ルートの意義
- 平和への取り組みで国際理解へ

- 委員会が主体となって、アクト・インター・学友・財団・米山に環境の紙芝居の配布を依頼、発送
- 作品応募19点、ガバナー補佐の委員会・ガバナー・ガバナーエレクト・ガバナーのミニで選考
- 2024年3月2日の地区大会本会議で環境の紙芝居コンテスト優秀賞の発表・実演
- 各クラブに優秀作品とひまわりの種を配布
- 各地の保育園・幼稚園から紙芝居の配布を多数要望が殺到
- ひまわりの種とともに配布・次年度へ継続

世界平和のための取り組み

要申込 6,500円

Rotaract (actives 100)

第1回 アジアンルートプロジェクト報告会

「とどけ・ひまわり」

「アジアン・ルート」

2024年7月18日

15:00~17:00

Kobe Harbor Kitchen Hall

2024年6月15日(日)に開催されたアジアンルートプロジェクト報告会が、7月18日(水)に神戸ハーバーキッチンホールで開催されます。報告会では、アジアンルートプロジェクトの意義や、各地の取り組みについて詳しく説明いたします。

報告会終了後、懇親会も予定しています。

報告会参加費として、アジアンルートプロジェクトの意義や、各地の取り組みについて詳しく説明いたします。

報告会参加費として、アジアンルートプロジェクトの意義や、各地の取り組みについて詳しく説明いたします。

7

## 第2分科会 インターアクトの組織と運営

	<p>■2002年姫路ロータリークラブ入会</p> <p>■プロフィール 総合建設業 株式会社三木組 代表取締役 (姫路市内の総合建設業) (一社)兵庫県建設業協会 理事 副会長 (6月14日総会終了時より会長となる予定)</p> <p>■ロータリー歴 2014-17年 インターアクト小委員長 2020-21年 青少年交換小委員長 2021-22年 青少年奉仕委員長</p> <p>2013-14年 姫路ロータリークラブ幹事 2017-19年 姫路ロータリークラブ会計 2023-24年 姫路ロータリークラブ会長</p>
リーダー 三木 健義	

### 【分科会のご紹介】

2020年から始まった、新型コロナウイルス感染症の影響は、2023年5月に2類から5類に分類が変更されるまで、社会生活に大きな影響を及ぼしてきた。インターアクトクラブの活動も例外ではなく、人と人の直接的な触れ合いの機会が制限され、マスク着用の状態や、画面越しでの会話をせざるを得ない中、校内でのクラブ活動はもとより、対外活動も難しい状態が続いていたと思われる。その結果各地区でも集合しての事業開催が困難となり、インターアクトクラブの会員維持増強が難しい状態が続いてきたのではないかと想像される。現在その影響を脱しつつある中、より魅力ある活動が持続的に行えるように、また未成年者の参加する活動への留意点や、インターアクトクラブはロータリークラブと学校が相互に関与していかなければならないという特殊性を考慮しつつ、より効果的な組織づくりと運営を行うために、各地区が抱えている問題点や、解決に向けての取り組み方法等の意見を出し合い共有することにより、今後のインターアクトクラブの組織と運営の方向性のヒントとなる分科会を目指す。

### 【分科会報告】(2グループに分かれてのディスカッション)

【分科会報告】(2グループにわかれてのディスカッション)

Aグループ 進行役 第2680地区 三木 健義(姫路RC)

Bグループ 進行役 第2680地区 白井 良夫(伊丹RC)

1. 自己紹介と各地区の現状の説明(2グループに別れて自己紹介と現状発表)
2. 様々なテーマについて意見交換(抜粋)

### ●海外研修・国内研修・その他国際理解活動について

・海外研修についてはコロナ禍期間実施できなかったという報告が多かった。

・海外研修については、積極的にロータリーだから出来る活動として取り組む地区と、そうで無い地区の温度差を感じた。

・代替案として、他地区と連携してインターアクトクラブ同志の交流を中心にインターアクト活動を行い、海外研修に匹敵する事業の報告もあった。

・海外研修を実施していない地区では、国内地区同志での合同研修を実施したという事例発表があり、アクト同志の交流を実現すると同時に、お互いのアクトの活動の活性化に繋がっているとの報告があった。海外研修に変わる研修としての実施を地区単位で検討、取り組むことも重要だと思われる。

・国際理解の活動として、ロータリーの他の活動である、米山記念奨学会との交流や、青少年交換来日生との交流も含めて進めたという報告があった。

・ある地区では、インターアクト・ローターアクト・米山も含めたイベントを実施し、台湾からも参加があったという報告もあった。

・ある地区では、国際交流に力をいれており、台湾での海外研修を予定しているという報告もあった。

・海外研修（アジア・台湾）を実施している地区では、やはりアクトの通常の活動では経験できないこともあり、活動モチベーションを維持できる効果は見られる。しかし、未成年の事業でもあり、より危機管理の重要性が増している。

<<RIJYEMによる支援についての要望もあった>>

・インターアクトの研修については、海外、国内を問わず、顧問負担が大きく、地区インターアクト委員会、提唱ロータリークラブのロータリアンの準備、実施における関わりが求められた。そうでなければ、今後の実施は難しくなるという意見もあった。

#### ●情報の共有について

・上記他地区インターアクトクラブと連携した事業実施には、他地区の顧問の先生と連絡し、協同で企画・実施が必要だが、地区を越えたネットワークはないので、他の地区にどんなクラブがあるかという情報や連絡先が分からず、情報共有の必要性を感じている。

・ロータリーネットワークや、RIJYEMなどで、国内連絡先情報をまとめることができないかという要望もあった。

・顧問を含めロータリアンと以前はメーリングリストで連絡を実施していたが、現在は SLACK を利用して連携している(資料共有も含め)という報告もあった。

#### ●年次大会

・地区では、年次大会などの会場探しや、会場費の高騰などの困難な状況を受け、開催についての懸念が多く、地区から提示され、ホスト校での実施など学校側とのコミュニケーションを、顧問を含めた学校側とロータリアンと密に行っているという意見があった。地区によっては地区内をエリアに分

けて分散開催を検討・実施している地区もある。

・同様にある地区では、生徒の人数が多すぎて困っており、体育館では集まるのが難しいという報告もあった。

### ●ロータリーと顧問教諭（学校）とインターアクトクラブとの連携について

- ・ロータリアンと顧問の会合（顧問会）の重要性について多くの意見があった。
- ・コロナ禍の影響で、学校への訪問機会も制限を受けたため、提唱クラブとの交流も途絶えていた。
- ・地区委員会に顧問教諭が参加しているという地区もある。
- ・先生の働き方改革の流れは今後ますます強くなり、公立校の存続に影響がでるおそれがある。私学校についても、学校毎に判断基準が違うため、より地区委員と顧問教諭がコミュニケーションをとり、学校管理職との交流を活発にしなければならぬ。
- ・学校との関わりをロータリーが持つことで円滑な運営ができるため、定期的な交流の必要がある。
- ・ロータリアンと顧問教諭がより情報交換を実施することにより、ロータリーの活動の理解、インターアクトの活動の理解が双方で深められる。
- ・学校の理事長、校長の理解がないと顧問教諭の理解があっても、話が進められないこともあり、提唱ロータリークラブと校長の話し合いによる理解が必要。
- ・インターアクト・ロータリー双方の例会交流や提唱クラブ行事へのインターアクター招聘など関わりを持つことで、お互い活動内容を知る機会にもなる。

### ●インターアクトクラブの状況（コロナ禍での会員減少と会員増強）

- ・コロナ禍で、ほとんどの地区で活動の制限を受け、アクト会員の減少傾向が見られる。
- ・昨今の生徒数の減少・顧問教諭の環境の変化などの要因で、特に公立校での新設・維持が難しくなっている。その一方新たにインターアクトクラブ設立の予定をしている地区もある。
- ・ボランティア部としての位置づけになりつつあり、ロータリーのインターアクトから若干乖離が生じている。またアクトも他の部活との兼部メンバーが多く、活動に参加できないなどのケースも多く報告された。
- ・ボランティアクラブと見られているケースも多い。奉仕という概念が正しく伝わっていない。
- ・『インターアクト』とう表記は何をしているのかわかりにくい。参加して初めて理解できる。
- ・インターアクトという名前を考慮するべきでは？何をするとところなのか、説明を受けないと名前だけでは判断できない。
- ・生徒が他の部活動との兼部が多いことを踏まえて、活動内容やボランティア活動だけをする部ではなく、他のアクトとの交流を通して成長を目的としている部分をアピールして、より魅力的なクラブとして他の生徒へ紹介している。
- ・顧問教諭の理解も必要だが、インターアクトの活動に兼部であることを活用して、兼部先の部員への参加案内をするケースもある。
- ・海外研修は会員増強において魅力的ではあるが、青少年交換扱いとなり、危機管理上難しくなっ

いきている。

- ・ 会員増強については、進学・就職に有利という側面が追い風になる場合もある。
- ・ ロータリーが行っている青少年交換プログラムをインターアクターに紹介してはどうか。
- ・ 年によっては、ボランティアをしたい生徒が多い時もあり、会員状況は様々である。

### ● インターアクトの活動の活性化・理解促進及び運営サポートについて

- ・ 奉仕活動の意欲（熱量）はロータリーと生徒とどちらが高いのだろうか？
- ・ インターアクター同志の活動で影響を受けるケースもあり、一生関わりたいボランティア活動に発展する場合もある。
- ・ インターアクト以外でも、ボランティア赤十字など一生関わるものを目指すケースもある。
- ・ 対象年齢が同一なので青少年交換事業に参加する場合もある。
- ・ 活動できる機会の提供が大事で有り、そのためには情報の共有が必要である。
- ・ キッカケ作りには、顧問教諭の影響力は重要である。
- ・ 一般ロータリアンは、インターアクト部門を担当しないと内容が分からないこともあり、ごく限られたメンバーしか理解できていないケースもあり、提唱クラブから地区委員会参加や、クラブ内・地区においても単年度ではなく、3年程度の任期も必要である（事業理解・引継ぎを円滑にするため）
- ・ 一番大事なことは、インターアクトについてのロータリアンの認知度を向上させ、地区委員の育成・増強をすることであり、それが今後のインターアクトの活性化につながる
- ・ クラブのサポートが大事になる。清掃活動、海岸の清掃なども含め。
- ・ ある地区では2ヶ月に1回ロータリアンがインターアクトクラブを訪問しているという事例発表があった。
- ・ ある地区では、海外研修が100人以上となり、顧問主導ではなくロータリーが主導で行って欲しいという要望もあった。
- ・ インターアクターがロータリーの例会に参加したり、イングリッシュコンテスト、日本語学校でジャッジしたり、スピーチ発表をしているという事例発表もあった。
- ・ ロータリークラブによってサポートの熱量は違うケースもある。
- ・ 様々な意見の中で、ローターアクトクラブとの連携を深めてサポートを強化していこうとする動きも見られた。

### 3. まとめ

- ・ インターアクトの様々な活動は、実は関わるロータリアン自身を見直す場にもなる重要な活動である。若いインターアクターを、様々なロータリーの青少年奉仕事業へと導き、青少年交換プログラムや、卒業後のローターアクトクラブへの入会、さらにはロータリーファミリーへと成長していくようサポートすることが重要である。

## 第3分科会 インターアクトと危機管理

	<p> <b>■1991年西宮夙川ロータリークラブ入会</b>          2016年4月 西宮イブニングロータリークラブ入会  <b>■プロフィール 一般弁護士</b>  <b>■ロータリー歴</b>          2011～14年、2018～19年 各年度 RYLA 小委員長          2014～15年 2023～24年各年度 青少年奉仕委員長          2015～16年、17～18年、21～23年 各年度 青少年奉仕副委員長          2015～16年度 ロータリー財団副委員長          補助金小委員長          2014～16年、2017～24年 各年度 危機管理委員長          2021～22年 学友副委員長          2021～22年 第14回全国 RYLA 研究会地区実行委員長          2022～24年 ロータリー副委員長          2022～24年 DEI 副委員長          RIJYEM 設立時より RIJYEM 研修部門委員       </p>
リーダー 黒田 建一	
<p> <b>【内容のご紹介】</b>          色々なケースを想定し、危機管理についての意識を確認する。  <b>〔問題〕</b> 兵庫県にある甲RCがスポンサークラブである乙高校のインターアクトクラブ（以下、「乙IAC」といいます）では、春休み中に長野県のスキー場へ2泊3日のスキーツアーをしました。このツアーには、インターアクターが男子5名、女子5名計10名と付き添いとして乙高校教員2名（男女1名ずつ）、甲RCロータリアン5名が参加しました。       </p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◇ ツアー前の準備について注意すべきこと</li> <li>◇ ツアー中、付き添いロータリアンの一部は夕食時にお酒を飲んでおり、食事中、ロータリアンは高校教員にもお酒を勧めていた。</li> <li>◇ ツアー2日目になると、あるロータリアンはインターアクターの女子生徒には「〇〇ちゃん」と名を呼ぶようになった。</li> <li>◇ ツアー最終日、記念撮影を撮ることになったが、最年長のロータリアンが女性高校教員のC先生を自分の隣に座らせ肩に手をかけた。そのロータリアンはツアー中その教員に「付き合っている人は居るの」とか「休みの日は何をしているの」等の質問をしていた。この件については、後日C先生から乙高校を通じて甲RCに抗議がなされた。</li> </ul>	

第3分科会では3班に分けて事例形式によるディスカッションを試みました。

事例形式の場合、テーマは明確であり、解答も概ね決まっているところから、ディスカッションの運営はさ程難しいものではありませんでした。私は1日目に分科会も念頭においてファシリテーションの創始者であるC.ロジャーズの観点から司会の問題を解説しましたが、テーマが決まっており、その解答も一元的である今回の設例の場合、各々の設問についてメンバーの補足的意見と体験談が話され、これに対し、他のメンバーからの意見と体験談が加わるという形が多く見られたと思います。

各分科会では多数の意見が述べられ、個別的な紹介は出来ませんが、どの地区においても未成年者で構成されるインターアクト活動においてはロータリアン、教員と生徒の三者間の問題があり、具体的には会合での飲酒、保険の重要性、LGBTQ対応、発達障害対応、略称（さん、君など）問題から、ハラスメントが生じた場合の対応、更には女性会員から見たロータリーにおける女性の立場やそもそも女性が入会困難な根本的問題に至る迄1時間余りの時間内で盛り沢山の問題点が出され、情報交換をすることができました（分科会各班の内容について当日分科会終了後報告がなされました）。

危機管理の問題は地区によって状況が異なり、どの地区にとっても他地区の情報が得られる今回の様な分科会は貴重な機会になったものと思います。

# 分科会テーマに基づくフォーラム(分科会発表)

※当日のフォーラム発表の様子をテープ起こしております。

## 第1分科会 インターアクトの国際理解と社会奉仕活動について

【リーダー】第2680地区 安行 英文(三田RC)

第1分科会では、インターアクトが取り組むべきものの国際理解はどう社会奉仕に関連づけてやるかということも含めた形を お話し合いをしていただきました。

国際理解っていうのは大変難しいですよ。関心を向けていただくとしても、我々にはメディア等からの情報しか入ってこない。じゃあ、そこで何ができるかということは、大変難しい。ましてインターアクトの方々にそれを実践してもらおうと思ったら大変だと。だけど、私が昨日言った「Be Know Do」で我々がやるべきことというのは、「どう行うべきか」ではないですよ。絶対それやっちゃいけない。「どうあるべきか」なんですよ。

我々はどうあるべきかです。何を行うべきかは考えないです。どうあるべきかを常に、リーダーというものは自問自答していかなきゃいけないと。それによってみんながついてくると思います。ですから、最初に申し上げた通り、be すなわち「どうあるべきか」ということを常に我々は思っています。「どう行うべきか」ではないです。

思い出しますけど、私はインド最北部、ネパールの国境近くへ行きました。そこは、エイズ村という村で、女性の権利がないところです。この人たちはやはりね、ネパールの側の女性の方が、働き口がないのでインドに雇われていくんですけど、とても生活ができなく、この辺りは女性の相続権がないところです。独り身になったり、離婚をしたり、それから、生涯独身で通された女性の方々には、財産相続権がない。で、村に入れる権利もないっていうことで、皆さん、女性の方だけが集まって暮らしてる村っていうのがたくさんあります。

そうすると、働き口がないので、どうしても売春してしまい、エイズ村と言われるほど、エイズに罹患して帰ってくる。このような孤立した村っていうのはインドの北部にたくさんあります。で、ここにやはりロータリーが入ってますよ。

僕はそこに調査に行って、どんなことしてたかという、フェアトレードをしていました。それは何かというと、女性たちに働き口がないので、Tシャツに手でいろんな色でペインティングしていくんですよ。そのカラフルなTシャツをルートに乗せようということで、市販化するまでに、トレードの人たちにその製品を買い上げていただき、各国を回っています。

昨日テレビでやってましたよ、障害の人たちの絵を売って、世界的にこう関心を向けると、Louis Vuittonの人たちとかが買い付けに来たりする。そういう新しいルートを開発するというのは国際的な理解が必要で、我々はそういうアンテナを張っておかなければ、子供たちあるいはインターアクトの人たちに、そういうこともできるよ、ああいうこともできる、お手伝いぐらいはできるよっていうことを言えない。そういう情報発信っていうのは、いろんなところから皆さんに関心を向けていただく。我々の分科会では、最後にですね、どういうところに目標を置いてやるかということも申し上げました。戦略的なストラテジーっていうのは、我々は大きな山の頂上だけを示し、後の目標、戦術についてはいろんなところからアイデアをもらえばいい。なぜそうするか。大きな山の頂上に目標だけの戦略を置いとくと、どこからでもその山の頂上を見れるからなんですよ。そうすると、みんなはその頂上を

見えるから、ダイレクトに上がるのか、ジグザグに上がるのか、車で行くのか、歩いていくのか、橋をつけるのか、そんなものはその頂上を見えるからいろんなことができるんです。その大きな頂上の戦略的なものだけを我々がどう示すかっていうことですね。そこ考えないと、国際理解も地域の理解もそういう社会奉仕もできない。そこを我々指導者側の、インターアクト委員の皆様々、地区の指導者の方々もそこを見据えていただきたい。そこが大きな狙いであって、我々は若い人たちと共に行く目標設定、そこに彼らに自由に発想を与えてあげるといふこと、大きな頂上を示すといふことをどう考えるかってことだけは我々は考えていったらいいかなという風に思っております。答えのない問題を分科会ではやりました。主にこういうテーマで考えていただいて、皆さんの発想を持ってですね、きっかけ作りしていただければ大変嬉しいかなといふことで、少し分科会での3班に分けてのお話し合いをしていただきました。それぞれご準備ができるとできていると思います。代表の方にお話しいただきたいと思います。

#### 【1班】2650 地区 I 氏（彦根総合高等学校 IAC）

失礼します。2650 地区滋賀県の彦根総合高等学校インターアクトクラブから参りました。簡単ですけど、ちょっと説明をさせていただこうと思います。

1 班はロータリアン 7 名、顧問 3 名の計 10 名でグループディスカッションをさせていただきました。議題をいただいたんですけども、「将来の危険を回避するために困っている方を救わないことは認められるのだろうか」という議題で話をさせていただきました。皆さん、自己紹介をしていただく中で、インターアクトクラブの問題点や、取り組みについていろいろ意見が欲しいというようなご相談でしたので、その話し合いを先にさせていただきました。

で、いろんな意見が出てきたんですけども。本題があるのでちょっと時間は短かったんですけど、本題に入っていく中で、各地区で、国内、国外問わずいろんなところに研修に行っていたとは思いますが、その困っている方を救わなければならないのかってところの答えはなかなかないんですが、現地に行って研修することで、現状を知り、奉仕する心を意識づけさせることが大事なのではなかろうかというような意見を頂戴させていただきました。最終的には、救われたものは次に救うものになることができるのではなかろうかという意見で最終終わったという感じです。以上です。

#### 【2班】第 2520 地区 K 氏(仙台 RC)

まず、第 2 グループの方が、「貧困の放置は罪か」というとても重たい命題をいただきまして、これにつきまして、まずロータリアン 6 名、インターアクトの顧問の先生 3 人、それからロータリアンでありインターアクターの顧問である 1 名を合わせ 10 名で活発に議論をすることができてよかったなと思っております。皆さん方にまず感謝申し上げたいと思います。ありがとうございます。さて、その上で、私も大変勉強になったんですけども、マザーテレサの言葉を出していただいた方がお二人いらっしゃいまして、「無視するこなく知ること」、これが大切なんだと。「貧困の放置というのは罪か」というテーマに対するまず基本的な考え方じゃないかなと。そして、その上で、高校生ですから、実は学習指導要領の中に総合的な探求の時間がございます。その総合的な探求の時間で行われている手法を取り入れていくことも大切なんだよね、SDGs の中も貧困というテーマがあるでしょというような話を含めてさせていただきました。2 番目は、やはり、そう言っても高校生に気づいてもらえるような、そ

う認知する目を育てていく環境を作っていくまいかということになりました。そして3番目としては、そういう認知してもらうことを経た上で、奉仕する心を育み、地域や世界に良いことをしようと向かっていけるような方向性が、インターアクターが出てくればいいねということで、我々のグループは話が終わりました。ありがとうございました。

### 【3班】2680 地区 F氏(滝川中学校・高等学校 IAC)

皆さん、こんにちは。2680 地区滝川高校インタークラブ顧問の福山でございます。ロータリアン7名、顧問3名で活発な意見を交わすことができました。3班のテーマなんですけれども、「私のものは私のものか、自分で得た利益はどう使おうと、自分で使う、所有権が、この直感正しいか」という非常に難解なお題を与えられました。で、いろんな意見出たんですけれども、まず結論としましては、もう自分の利益は自分のものであるというのは、それはいいんじゃないかという意見です。で、ただし、この利益というのは金銭的なものじゃなくて、知識とか経験とかそういうものを含んだ上での利益、これは自分のものでいいだろうと、ただし、それは社会と共有して初めて価値が出るんじゃないかというようなことをロータリアンの皆さんでおっしゃいました。私欲の追求それ自体は決して悪いものじゃないだろうというような意見もやっぱり出まして、例えばこうドラッカーなんかは「私的な強みは公益になる」と。社会奉仕的観点からそうつながるんであろうと。

あるいは、面白かったのは空海さんの話が出まして、空海さんなんかも、決して欲は否定してないと、ただし「大欲を持って」みたいなことを言われるってことなんです。それ何かというと、私的な利益追求じゃなくて、公益を求めているんだという話で。結局そういうことができるのは、個々の経済的生活が安定して初めてできるところもあるので、その自己利益は否定しないと。

そういうところも、昨日の吉岡パストガバナーのフォーラムで、深川先生のところで述べられてましたけれども、「ロータリアンたるもの、奉仕活動に憂き身をやつすことなかれ」みたいなこと言われてるんですけど、こういうことを含めて言われたのかなみたいな話になりました。

その上でですね、じゃあインターアクトの関わりどうするべきかって話になったんですけども、今の子供たちって、こう、草食みたいなこと言われます。知識欲も物欲もないんだと。結局そういうことだから、考えもしないし、次活動も生まれないと。で、それはどうしたらいいのかみたいな話もありました。

私自身の経験で言うと、実は生前、今井鎮雄先生に同じような質問したことありまして、今井先生は何て言われたかということ、「ただ単に経験させてください」と言われただけです。それ一言だけでした。結局そんな話もしてたんですけれども、皆さんも同じで、やっぱりお金だけじゃなくてロータリアンが得た知識とか経験、良質なそういう経験をインターアクトに伝えることによって、インターアクトは次に社会問題に気づき、何をしたいかって繋がるんじゃないですか。そういうことを伝えることが我々ロータリアンの宿命ですかねというような話になっておりました。長くなりましたけど、その他の国際活動の現状など、非常に有益な情報交換ができました。

以上、3班での活動報告です。ありがとうございました。

## 第2分科会 インターアクトの組織と運営について

【リーダー・Aグループ】第2680地区 三木 健義(姫路RC)

第2分科会は、インターアクトの組織と運営という表題で、12名程度のA・Bの2グループに分かれ

てテーブルディスカッションを行いました。

2 グループとも、コロナ禍に於いて、インターアクトの活動が制限されていた状況から、現在どのように各地区の活動が展開されているか発表していただき、それに基づき議論を進めていきました。

第1グループにつきましては、13人のメンバーで議論を行いました。各地区のコロナ禍後の状況を報告いただく中で、やはり、海外研修を、以前は行っていたが現状は難しい状況で、他地区のインターアクトクラブと連携して国内で研修を実施しているという報告や、地区内のロータリー青少年奉仕の枠組みの中、あるいは、米山などロータリーファミリーを含めた枠組みの中で、会合を持ってロータリー活動への理解を深めていこうという活動報告もありました。

他地区との交流を実施する中で、日本全体で他地区と連絡先を共有できるプラットフォームがまだ構築されていないので、各地区の状況や連絡先が分からないという報告もありました。今後、そのようなプラットフォームの構築を望む要望もあり、また地区内での顧問教諭やロータリーアンとの情報連携についても様々な実施状況の報告がありました。

その中で大事なことは、インターアクトへの機会の提供で、その機会を受けることによって、生徒が触発されて、活動に前向きになるというケースもあり、生徒同士の交流の中で、インターアクトクラブとしてどんな活動をしようかというアイデアも出てきたという報告もありました。また、様々な意見の中で、インターアクトクラブに従事している生徒の活動に対する意欲とロータリー(関係しているメンバーとそれ以外のメンバー)や学校の活動に関わる意欲などのテーマも出てきました。

出された意見の中で、学校・ロータリー・インターアクトクラブの関わりの中で、学校のロータリー活動の理解が非常に重要で、連携をスムーズにするために、生徒をロータリークラブの例会等に呼んだり、学校を訪問したりするを通して学校側に十分理解を得られるよう努力したり、定期的の交流の機会を持って学校の理解を得るような活動をされたりというような報告もありました。このような活動はコロナ禍で少し途絶え気味になり、徐々に復活されているようです。

会員増強についても、学校の理解を得た中で、インターアクトが兼部していることも多いことから、その状況を活用してインターアクトクラブの活動に、他のクラブ活動の生徒を呼んだりすることで、会員増強に繋げて行きたいという報告もありました。

その他の報告・意見として、コロナ禍から何年か経ち、新たにインターアクトクラブを作っていこうとしているという報告や、海外研修を復活していきたいという報告もいくらか出ておりました。また、『インターアクト』という名称が中身を理解しにくい名称ではないかという意見もありました。様々な意見があり、まとめ切れませんが、実りある活動が各地区で今後展開されることを祈念し報告と致します。

#### 【Bグループ】第2680地区 白井 良夫(伊丹RC)

第2グループにつきましてはRYJEMの津留副委員長にも参加をお願いして14名のメンバーで議論を行いました。集約報告にもありますように両グループ共にコロナ禍後のインターアクトの活動状況・課題や地区としての関わり方など置かれている状況は似通っていることがわかりました。第2グループとしてはインターアクトの海外研修を行う地区も多く、実施についての意義は大きいですが、相手国との調整やスケジュール管理等地区負担(地区小委員会、費用捻出、顧問教諭との情報共有、保護者とのコミュニケーションなど)昨今の教師の働き方改革に伴う顧問教諭負担の軽減策なども協議された。また未成年の海外研修であるので、危機管理・保険についてRYJEMの果たす役割確認などにも重点において協議を行ない、RYJEMの津留副委員長に今後のRYJEMの関わり方についても情報共有

した。地区によっては海外研修を危機管理上の問題から行わないで、国内の地区連携などで他地区のインターアクトクラブ交流を活発にしている地区の報告から、国内地区同志の交流を促進する方向性で一致した。そのためにはロータリーとしても各地区の青少年奉仕活動の情報交換できるロータリーネットワークの必要性も提案されました。

最も大きな問題として、やはりロータリーとしてのインターアクトをはじめとする青少年奉仕活動への関心を上げることが重要であります。スポンサークラブとしての学校との関わりや交流などは勿論のこと、クラブ内ロータリアンや地区のロータリアンへの認知度向上こそが、より活発な青少年奉仕活動の動力となります。クラブ内一部の担当会員、地区小委員会だけではなくこのロータリーの青少年奉仕活動の素晴らしさを伝え、インターアクターの更なる成長の姿と一緒に感じていただけると地区委員の育成・増強につながり、今後のインターアクト活動がロータリーと共により活発になることを願います。ロータリーとして如何に関わるか？今後のこの研究会を通じて発展していくことを祈念して報告とします。

### 第3分科会 インターアクトの危機管理

#### 【内容のご紹介】

色々なケースを想定し、危機管理についての意識を確認する。

【問題】兵庫県にある甲RCがスポンサークラブである乙高校のインターアクトクラブ(以下、「乙IAC」といいます)では、春休み中に長野県のスキー場へ2泊3日のスキーツアーをしました。このツアーには、インターアクターが男子5名、女子5名計10名と付き添いとして乙高校教員2名(男女1名ずつ)、甲RCロータリアン5名が参加しました。

◇ ツアー前の準備について注意すべきこと

◇ ツアー中、付き添いロータリアンの一部は夕食時にお酒を飲んでおり、食事中、ロータリアンは高校教員にもお酒を勧めていた。

◇ ツアー2日目になると、あるロータリアンはインターアクターの女子生徒には「○○ちゃん」と名を呼ぶようになった。

◇ ツアー最終日、記念撮影を撮ることになったが、最年長のロータリアンが女性高校教員のC先生を自分の隣に座らせ肩に手をかけた。そのロータリアンはツアー中その教員に「付き合っている人は居るの」とか「休みの日は何をしているの」等の質問をしていた。

この件については、後日C先生から乙高校を通じて甲RCに抗議がなされた。

#### 【リーダー・A班】第2680地区 黒田 建一(西宮イブニング RC)

こんにちは。黒田でございます。第3分科会の方は、今日のパンフレットにつけておりますけど、設問事例形式で行ないました。問題は、ここに書いてある通りなんですけども、a、b、c、それぞれ3班に大体10人ぐらいに分かれました。私はA班であとの班の事はわかりませんのでそれぞれ報告をいただきます。この問題自体は非常に典型的なケースをあえて書いております。今、挙手でいろいろ答えを聞いても、おそらく95パーセント以上の人は同じ答えになる可能性のあるような設問になっています。ただ、ケースバイケースということもあるので、必ずしもその全てがどうだつていう風言い切れないものでないことはないし、実際、分科会の中でもいろんなケースを想定しました。元々事例形式というのは、相対的な部分があります。事実関係が全部分かってるわけじゃないということになりますので、こういうレベルの場合にはどうするかっていうことを考えます。もう一つ余談になるかもわ

かりませんが、今の 72 時間ルール、この場合に、3 日間しかない間でその事例に対して刻々の事実究明をするってことは非常に難しい。つまり、この程度の事実を知った上で、じゃあどうするかって判断をしなければいけないって意味では、事例形式でやるってことは多少参考になるかなと。本当の意味での事実究明そのものは、さらにまた時間をかけてやっていくってことが必要になる。そういう意味では、72 時間ルールの申し立てのあった場合に、RI に報告するとかその時点では地区のクラブで判断する時には、こういった事例形式レベルの事実がよく分かっていない段階で判断をしていく場合の考え方、やり方かなっていう風には思っております。A 班では、もうこの問題に関しても、私を入れても 10 人ぐらいの人数ですから、非常に活発に意見が出ていました。全部言うわけにいかないんですが、答えそのものは大体想定通りということで、特に申し上げませんが、残念なので少しだけ加えますと、私は今回、問題の中にジェンダーの問題をある程度意識して入れてるわけですけども、今 1 番難しいかなと思うのは、LGBTQ の問題ですね。この問題に関して、皆さんの意見を聞きました。答えそのものがすぐに出るわけじゃないし、最終的には、それぞれのケース、LGBTQ や他の言い方が色々たくさんあって、多いものでは 14 ぐらい頭文字が繋がってるようですから、簡単に答えが出る問題じゃなく、その場で適宜判断するということにならざるを得ないということ。あとは、最近いろいろ問題になってる例えば色の問題、男は青、女は赤とか、そういうことが今、否定されている。あるいは、女の子に対しては「さん」、男については「くん」とか、今はもうそういう区別をしないというような問題がある。そういったことはかなり活発に話がありました。うちの A 班は 4 人が女性、4 割、心理学的には 4 割を超えると、女性、男性共に少数であることを意識せず、自分が確立できるというように言われております。ちょうど 4 人ですから、そういう部分で、その女性会員として何か問題はないかなどと色々な質問しましたが、ただ、増強の委員会じゃないのでどうかとは思ったんですけども、増強の観点からいくと女性特有の難しい問題、例えば家事とかで拘束されることが多い。直接お話を聞くとその現実が見えます。女性会員を増やせと言っても、その問題を解決しないと確かに簡単には増えないとか、いろいろなことを考えさせられました。危機管理を超えた、ロータリー全般のお話してきたと思っております。

A 班の報告を終わります。

#### 【B 班】第 2660 地区 M 氏(高槻西)

もう黒田さんが大変きちんとまとめられたんで、我々の B 班で出てきたものいくつかご紹介いたします。1 つ目の通話を前に、準備について注意すべきことに関連して、昨日も報告がありました。RI への旅行中に手術という事態になったということに関連して、いろいろ事前の準備はしてるけれども、じゃあいざ実際に病気になった時にどうするかということについて、やはり準備不足というよりも、いろいろ想定しなきゃいけないことがあったということです。例えば手術の同意書を得ることにして、保護者は日本にいる、連絡を取り、誰がサインするかということでも苦労されたって話ですとか、日本語のわかる病院、たまたま行った病院は日本語の分かる医師もいてかなり助かったようですが、そういう問題があります。日本語通訳のいる病院にするとか、24 時間看護でついてもらう、これは院外から人が来るらしいんですが、その費用を多額の現金で払わなくてはならない、そういうことをめぐる苦労とか、大変参考になるお話を伺うことができました。

事前準備の関係では、学生自身に中身を理解させなきゃいけない。交換の時にはいろんな大変な枚数の書類を作りますけれども、学生自身に読ませて書かせる、保護者が世話して学生は実は何も知ら

なかったということは、やはりいざという時の 対応について不十分であろうという話が出ました。

2 つ目のツアー中の飲酒ですけれども、これは実際、我々の班は 8 人でしたけれども、各地区によってやっぱり実態が異なる。子供にももちろん飲ませてはいけないんですけれども、先生なりあるいは学生が同席してる場で 飲む場合もある。了解を得て飲んでるということで、トラブルが起きてないという地区もありますし、もう一切飲ませない地区もあります。学校の先生は、もちろん学校の行事中に酒を飲むわけじゃないですか、そういうことにも配慮して一切飲ませないという。少し実態の違いはありますけれども、未成年者の前でお酒を飲むということが好ましくないという方向は、おおむね皆さん共通の理解だったと思います。これは、未成年者に飲酒の機会を与えるかのような場を作らないという面と、もう 1 つは、この設問の後ろにもありますが、ロータリーのいろんな行事の中で、アルコールが入るとロータリアンがトラブルを起こす、これは毎年起こしてるわけですね。やはりそれをいかに避けるかということが重要だということだろうと思います。

また、お酒が入ってということから関連して、いろんな実態の話が出ましたが、お酒以外ですと 3 つ目のセクシャルハラスメントとして、例えばハグですね、海外に派遣した子供がホストファミリー等にハグされるという、それが嫌だというようなことを言ってきて、それに対しアドバイスしたとか、そんな話もありましたし、「手に手つないで」も、地区によっては、学生も抵抗なくやってるから大丈夫だということもありますし、いろんな教訓から、もう手を繋がないで「手に手つないで」をされる地区も出てきますし、そういうお互いのいろんな情報があるということがわかりました。

あと、直接には関連しませんけれども、青少年交換で、ホストファミリーから、虐待ですか、ご飯が非常にわずかしかなかい。で、その子供はなんとか色々切り抜けて、自分で炊飯したりなどして 1 年間を終え無事帰りトラブルにはならなかったそうですけど、そういう問題もあるということです。やはりいろんなケースがある。それに対して、派遣した学生に対してきちんと満足 of いく対応、何かあった時に地元の派遣学生のカウンセラーなり、カウンセラーがその時対応できない時には、派遣元に連絡させるという、そういうことを事前にきちんと研修しておかなきゃいけないということと、そういう事例があるということ、これ各地区で持っていらっしやると思うんですね。それをやはり共有していく、その必要性があるということで、何かそんな工夫がないだろうかというお話がありました。実際、RIJYEM で全国の研究会やる場合も、プライバシーの問題もありますので具体例を出さずに、実はこんなことがあったという情報が、共有するようにしてきているようには理解してはいますが、委員も変わりますし、子供も変わる中で危機管理としていろんな事例があるんだということを紹介していく必要があると、そういうことも話に出ました。

我々B班は以上です。ありがとうございました。

## 【C 班】-

はい。C班です。今回の 内容の紹介からですね、進行の方から大きく分けて 3 つであろうという話でした。事前準備、初っ端ですね、やっぱりこういう問題は増えてそうですけども、やはり事前準備がちゃんと行われてないことが多いということがありました。そのあたりも含めて、方法論では 1 番最初に事前準備、企画する段階ですね、どこまでやるのかというところが大切であるということです。そして、事前準備ですから行先の現地調査を必ず行って、特に子供たちを連れて行く場合は 病院、診療所を必ずチェックをしていく必要があるということです。

そして、持っていく常備薬なんですけども、その薬に関してもですね生徒とか、それからついていくロータリアンに関して、アレルギーはないのかをやっぱりチェックしていく必要があるんじゃないかなということは出ておりました。そしてその準備企画をやっていくなかで、そのロータリアン自身にですね、やはり大切なのは「見守り」だということは言うておりました。ちゃんと子供たちについていく、引率していく先生だけに任せるのではなくて、子供たちを、インターアクターを見守る人をつけていく必要がある。

ただ、その場合に必要なのは、その見守り隊ということでやるんですが、飲酒をしない人をつけておくっていうことも大切ということも言うておりました。そしてですね、飲酒の問題は、本来、未成年が参加している場合はやっぱり飲酒はやっぱりダメでしょってというのが本来の意見だったです。そうだと思うんですが、やはり先生方によっては部屋飲みをされることも多いということを知っておりますので、その辺り、ロータリアンとしてその部分はどうでしょうか。飲酒はやっぱりやめておくべきではないかな。もし子供たちに何かあった時、病院等に行く時に車の運転ができないと、応急処置ができないとなってくると大きな問題になってくる可能性があるということも出ておりました。そして最後呼称については「〇〇ちゃん」いう読み方はやはり良くないだろうと、「さん」付けで呼ぶのが妥当ではないかとの意見が出ておりました。

そしてですね、あと、そのハグの問題ですね。この部分はやはりパワハラ、セクハラになっていきますので、質問内容であるとかその部分については気を付けていく必要があるんじゃないかなと言っておりました。そして、これらの問題すべてがロータリアン、インターアクター、顧問の3つの問題だけではないということが最終的に出ておりました。ロータリアンとして、社会上の通念に乗っ取り、本当に模範を示すメンバーであるということがやっぱり大切ではないかなと思っております。このあたりで今回のC班の結論とさせていただきます。ありがとうございました。

# 総 評

第 11 回全国インタラクティブ研究会 顧問 三木 明(姫路 RC)

昨日、今日と大変長時間ありがとうございました。大会テーマとしまして「未来のリーダーを育てるロータリー」ということで、まさに若い人々と関わる私たちの 1 番の大命題であります。若い人たち、未来のリーダーを育てなければいけない、これが大変大切な現在のロータリーの方向性であります。総評と申しますより、私から感謝の言葉を述べさせていただきたいと思います。本当にありがとうございました。インタラクティブをはじめ、青少年交換、そしてローターアクト、今は事情が変わりましたが、米山とか、若い人々と接する機会がどんどん増えておりますし、先ほど申しましたように、ロータリーは若い人々、未来のリーダーを育てるのが大きな役割でありますので、そのようなことに関わってくださっている皆様方のこの熱意、行動力に心から敬意を表したいと思います。

賀川記念館の馬場一郎先生、そして深川純一パストガバナーの、ご本人は「一番弟子」だと言っておりますけど、吉岡さん、1 番弟子は私でございます、吉岡さんは 3 番目か 4 番目。私と吉岡さんの間ではそういう議論がしょっちゅう戦わされております。永遠の課題です。

賀川豊彦さん、深川パストガバナーのお 2 人とも弱者に涙する心の持ち主でありまして、ロータリーの標語、“Service not self”無私の奉仕という風に言われております。今は”Service above self”ですけども、その“Service not self”の世界にお 2 人は生きておられた。これは私たちにとって大変学ぶことの多い世界であります。自分たちのことは置いて、他者に 何かお手伝いしよう、手を貸そう、できることがあればなんでもお手伝いしますよと、そういう気持ちがお 2 人のお考え、そして行動から読み取ることができて、学ぶことが大変多いことでした。

環境紙芝居、大変楽しく見ましたけれども、その後でどなたかがおっしゃっていました。お金かけなくてもいいことできるんだね。まさにそれは私たちが気をつかなければいけない。若い人々に対して、お金をかければいい、声をかければいい、そうではなくて、そのアイデアを彼らから正しく引き出す、そして彼らの行動力に任せることを、そんなことを私たちは謙虚に考えなければいけない。

ただ支援する、補助する、補助金を出す、支援金を出す、そして口を出す。そうではなくて、彼らの行動力、アイデアに謙虚に耳を傾け、学ぶことが私たちの役割ではないかという風に思います。私たちはいろいろなアイデアを出しますけれども、決して押し付けがましくではなくて、彼らの考えを尊重しなければいけないです。

昔、大阪ロータリークラブの黎明期に 土屋元作という素晴らしいロータリアンがいらっしゃいました。土屋大夢(タイム)、「大きな夢」と書く号をつけておられますが、大分県出身のジャーナリストです。朝日新聞に勤めておられたと思います。その号のタイムっていうのは、「大きな夢」と書きますけれども、ニューヨークタイムズとかロンドンタイムズのそのタイムをご自分の号につけて活躍なさった方です。今の言葉遣い

で適切かどうかちょっとわかりませんが、彼の当時の言葉遣いで、彼は「若い人たちに仕事をさせてみよう、老人の思いも及ばぬ素晴らしい働きをするであろう」そんなことおっしゃったことがあります。これは100年近く前、もっと前かもしれません。私たちは、その若い人たちが持つエネルギーや考え等を彼らから学ばなければいけない。私たちの数十年間の人生だけが素晴らしいものではなくて、今これから生きようとしている若い人たちが、どんなことを考えているんだ、何を考えているんだ、どんな未来を夢見ているんだろう、そんなことを私たち自身が謙虚に考えなければいけないということも学んだわけであります。それで、先ほど白井さんからお話ありましたけれども、ポータルサイトを作ってほしい、これですね、これ。ぜひこれを携帯で取っていただいて、ちょうど次年度の開催地であります長野県の地区からわざわざおいでくださいました桑澤一郎さんが、ほんとに手作りで努力して作ってくださったポータルサイトであります。これにはロータリーの最新情報が盛り込まれております。後ほど開催地のご紹介いただく時に、桑澤さんからもう少し詳しく内容的にもお話いただけると思いますので、ぜひこれをご活用いただきたい。ロータリーの中でも、まだあまりご存じのない方もいらっしゃいますけれども、顧問の先生方もロータリーの新しい情報をお取りいただいて、今ロータリーがどういうことを考えているんだ、これから何をしようとしているんだ、そんなことを引っ張り出していただければありがたいと思います。

少し時間が早いのですが、総評と申しますより、お礼の言葉に代えさせていただきたいと思います。次年度は長野の桑澤さんの地区、そしてその次は福島、その次は ちょっとまだ公表はできないのですが、ほぼ決まっておりますので、ぜひ来年も再来年もその次も皆さん方のお目にかかることを楽しみにしております。そして、今年こんなことあったんだよ、来年はこうしようねっていう、そういう情報交換を、ぜひしていただければありがたいと思います。よろしく申し上げます。2日間、最後の締め言葉ではありませんけれども、本当にありがとうございました。感謝申し上げます。

## 次回開催地紹介・ホスト地区挨拶

第 2600 地区 桑澤 一郎パストガバナー(茅野 RC)

ご紹介いただきました 2600 地区(長野県)、2021-22 年度のガバナーを務めました、桑澤と申します。

今日お時間をいただいて、来年の 4 月開催予定の次回全国 IA 研究会のご紹介とお願いに参りました。そのために、昨日から 2 日間、大変勉強させていただきました。2680 地区の皆さんのロータリーやインターアクトに対する熱意を参考にさせていただくとともに、私のロータリーライフはまだまだだなという風にひしひしと感じました。そのぐらい、皆さんのロータリーに対する思い、また青少年に対する思いが大変勉強になりまして、本当に来て良かったなという風に思っております。

実は、私のロータリーライフは青少年奉仕活動が中心でした。特にインターアクトは、クラブの提唱ももちろんですが、地区の委員を 3 年、それから委員長を 3 年経験しまして、その後、青少年奉仕委員会の委員長を 3 年やっていました。インターアクトには私自身、非常に思い入れもあります。2600 地区のインターアクトをちょっとご紹介しますけども、基本的には独自性を尊重するんだということで、私たちは活動を指導しています。現在、12 クラブのインターアクトがあり、180 名ぐらいのインターアクターが活動しております。京都で開催された第 4 回の研究会に出させていただき、それをきっかけにいろいろ取り組みを変えてまいりました。まず、それまで 6、7 年やっていた台湾研修というのをやめ、それよりも各インターアクトクラブ独自に自分たちできちんと考えた奉仕活動また研修活動をするように指導を変えていきまして、その結果、実は非常にインターアクト活動が活発になりまして、今のようなクラブ数、人数にまで増えてきているという現状がございます。これからはですね、もっとそれを発展させて、自主独立みたいな形のインターアクト、つまり、ロータリーがこうしなさいってやる以上に、彼らにもっと自分たちが何をすべきかっていうことを考えさせるところからインターアクト活動をやっていこうと。各地区の皆さんもそうだと思うんですけど、多額の資金をインターアクトにつぎこむじゃないですか。ロータリーもだんだん縮小する中で、自分たちの奉仕活動の、元資をチャリティー等で自分たちで稼いでいく、そして奉仕をしたり研修したりするという考え方に少しシフトしていく必要があるんじゃないかなという風に考えております。先ほどからの、皆さんの発表の中にですね、私も分科会をちょっと聞かせていただいたんですけども、ロータリーファミリーのネットワーク化というものはこれから少し課題になってくるんじゃないかなと思います。ライジエムさん、サポート体制を整えていただいておりますので、やはりその辺の力を借りながら、インターアクトとそれからロータリーアクトと、あと青少年交換、米山もそうですけども、こういった人たちのネットワーク、そういったものを試みて行きたいという風に思います。次回のインターアクト研修会は、これらのことをテーマに、こうした方向性を見出すような、より具体的なスキルが身に付けられるような研究会にしたいと思っておりますので、ぜひ皆さん多数の方ご参加いただいて、これからのインターアクト、また青少年活動全体をもっともっと盛り上げていくような、会にさせていただきたいという風に思います。お待ちしておりますので、ぜひよろしく申し上げます。

ちょっと携帯を出していただいて、カメラを拡大をして読み取ってください。実は、先ほど仙台のご紹介もあったんですけども、2600 地区のインターアクトのサイトがあります。ぜひ、あとで参考にご覧ください。また、先ほどジャパンロータリーポータルサイトのお話があって、三木さんからわざわざご紹介をいただいたんですけども、そういったネットワーク側がうまくいけば、情報共有のために皆さんの共通のサイトって

いうのを立ち上げることも可能かと思えます。1つの基盤と言いますか、参考ですね、そういったものになるように、これから2600地区のインターアクトのサイトを変えて行こうかと思えますので、ぜひ参考にしていただいて、またご意見あればいただければと思います。あと、私、実は第2地域のARPICという公共イメージコーディネーター補佐という役も仰せつかっておりまして、今盛んにロゴのことを厳しく行っておりましてですね、大変僭越なのですが、このロゴはちょっと違うんですよ。これはもう完全にオクトンのせいなんですけれども、当初オクトンが間違っただけの旗の使い方を皆さんに提供してしまって、旗はこれですと言われて、多分オクトンで作られたと思うんですけど、向こうにある旗が正しい使い方です。あれはもう完璧な使い方、旗のここに地区番号を入れるっていうことなんです。これ、ロゴに”Rotary sponsored club”と書いてあるのは、ここに提唱クラブ名を入れなさいっていう案内だったんですよ。案内だったのに、その案内の分をそのまま入れてしまいました。私、実はオクトンに電話したんですよ。違うぞって言ったんですけど、いや、これはRIからこういう風に言われているんですけどって言い張っていたんですよ。皆さん、この旗、私の地区でもですね、だんだん変えていかなきゃいけないなと思っていて、皆さんが来年お越しになるまでには全部委員長をお願いして変える予定にしております。実はこのサイトのところに、My ROTARYにはロゴの作成画面があるんですが、そこに直接飛ぶようなリンクを作っております。パソコンからしかできないんですけども、パソコンからアクセスしていただければ、皆さんのインターアクトクラブのロゴも、組み合わせが自分でできるようになっていますので、ぜひそれを使っていただければという風に思います。

先ほどのジャパンロータリーポータルサイトをもう一度出してください。これは皆さん、ロータリアンの方はすでにご存知だと思いますが、先生方も、ぜひアクセスしていただいて、ブックマークしてください。先ほど三木さんから話ありましたように、ロータリーが今どんなことやっているかということもぜひご理解をいただいた上で、生徒たちの指導をお願いしたいと思えます。すいません、長くなりました。以上が私の次年度の研究会へのお誘いのメッセージであります。ぜひ多くの方にご参加いただきますよう、お待ちしております。よろしくお願いたします。

ジャパンポータルサイト <https://www.japanrotary.club/home>

クラブセントラルがマルチタイマーに対応しました [こちらをクリック](#)

Zone 1A, 2, 3 PortalSite HOME RI24-25 3年間の目標 クラブセントラルマルチタイマー... アクションプラン 世界ポリオデー Grow Rotary D.E.I. 公共イメージ向上セミナー202

ご登録の方はお忘れなきようご参加願います。

**JAPAN Portal Site** Rotary ZONE 1A, 2&3

[www.japanrotary.club](http://www.japanrotary.club)

**Japan Portal site へようこそ!**

地区やクラブへのスムーズな情報提供、情報共有をよりスムーズに、密にしていけるよう Japan(RI zone 1a,2,3)のポータルサイトを作成しました。重要事項をわかりやすく掲載しております。

MyRotaryに加え、是非こちらも活用いただきますようお願いいたします。

スマホからはこちら

RI 24-25 区域方針 3年間の目標 (3-Year Goals)

アクションプラン (行動方針) 会員案内 (Grow Rotary)

# 第11回全国インタラクティブ研究会参加者名簿

※ 敬称略

## ロータリアン

地区	氏名	クラブ	地区役職
2500	曾我 浩昌	帯広北	地区インタラクティブ委員長
2510	福見 隼人	札幌東	インタラクティブ委員長
2520	加藤 雄彦	仙台	ガバナーノミニー
2520	佐藤 知樹	仙台	地区インタラクティブ委員長
2530	泉田 征慶	浪江	ガバナーノミニー
2530	大木 和彦	須賀川	青少年奉仕委員会 委員長
2530	吉田 隆夫	船引	インタラクティブ委員長
2540	黒丸 雄平	横手	地区インタラクティブ委員長
2550	中野 智之	宇都宮南	次年度年度地区青少年奉仕委員長
2580	土崎 幸恵	東京東村山	地区インタラクティブ委員
2590	青木 理	横浜南	次年度地区青少年奉仕委員長
2590	古林 能敬	横浜南陵	次年度地区インタラクティブ委員長
2600	桑澤 一郎	茅野	パストガバナー
2600	小池 晃	信州友愛	地区インタラクティブ委員長
2610	吉谷奈艶子	高岡北	地区委員長
2610	上原 邦弘	小松	地区副委員長
2620	小泉 久司	甲府西	ガバナーエレクト
2620	小柳 守弘	浜松北	インタラクティブ小委員会 委員長
2620	北村 公一	南アルプス	
2640	谷 宗光	和泉	ガバナー
2640	坂東 剛	高石	地区インタラクティブ委員長
2640	岡本 弥生	河内長野高野街道	次年度地区青少年奉仕委員長
2650	徳尾 隆次	京都西	次年度地区青少年奉仕委員長
2650	宇野 晃成	武生	地区インタラクティブ委員長
2650	藤本 邦宏	彦根南	地区インタラクティブ副委員長
2650	飛田 幸平	福井北	地区インタラクティブ副委員長
2650	小島 裕史	京都平安	地区インタラクティブ委員
2650	倉田 智史	奈良大宮	地区インタラクティブ委員
2650	永井 智宏	近江八幡	地区インタラクティブ委員
2650	才門 俊文	京都洛中	地区インタラクティブ委員
2650	下村由加里	奈良西	地区インタラクティブ委員
2660	片山 勉	大阪東	パストガバナー
2660	大橋 秀典	東大阪東	ガバナーエレクト/地区青少年奉仕統括委員長
2660	間石 成人	高槻西	地区危機管理委員会 副委員長
2660	山本 博之	大阪東	地区インタラクティブ副委員長
2660	磯田 郁子	大阪東淀ちゃやまち	地区インタラクティブ委員会 委員
2660	小阪 大輔	高槻	
2660	贅田 淳子	大阪西南	地区インタラクティブ委員会 委員
2660	荻原美津子	大阪西南	

地区	氏名	クラブ	地区役職
2660	佐藤多加志	大東	次年度地区インターアクト委員長
2660	生駒 智人	大東	地区インターアクト副委員長
2660	中野 秀一	大東	次年度地区インターアクト委員会 委員
2670	夏見 良宏	丸亀	ガバナーエレクト
2670	萩田 智子	高松北	青少年奉仕委員長
2670	高岡 淳	伊予三島	インターアクト委員長
2670	中村 秀樹	高松	
2670	阿部 真弓	今治	インターアクト委員会 委員
2670	村上 佳孝	阿波徳島	インターアクト委員会 委員
2670	岡崎 秀仁	高知口イナル	インターアクト委員会 委員
2680	三木 明	姫路	ロータリー財団管理委員・元 RI 理事
2680	安行 英文	三田	ガバナー
2680	吉岡 博忠	伊丹	パストガバナー
2680	矢坂 誠徳	神戸西	ガバナーエレクト
2680	城 守	姫路	ガバナーノミニー
2680	白井 務子	姫路	ガバナーノミニー・デジグネート・青少年奉仕委員会 副委員長
2680	山口 宰	神戸西	次期地区代表幹事
2680	黒田 建一	西宮イブニング	地区青少年奉仕委員長
2680	田中 賢一	伊丹	地区青少年奉仕副委員長
2680	舟元美智子	神戸東灘	地区青少年奉仕副委員長
2680	奥田 裕	神戸モーニング	地区学友委員会 副委員長
2680	贄田 肇	宝塚	地区インターアクト小委員会 委員長
2680	前田 隆則	伊丹	地区インターアクト小委員会副 委員長
2680	三木 健義	姫路	クラブ会長・地区インターアクト小委員会 委員
2680	藤縄 修平	尼崎西	地区インターアクト小委員会 委員
2680	横山 裕行	宝塚	地区インターアクト小委員会 委員
2680	大前 裕樹	篠山	地区インターアクト小委員会 委員
2680	金子 敬之	柏原	地区インターアクト小委員会 委員
2680	永松 潔和	神戸	地区インターアクト小委員会 委員
2680	飯田美奈子	神戸西	地区インターアクト小委員会 委員
2680	永田 哲也	神戸垂水	地区インターアクト小委員会 委員
2680	壁屋 香	神戸西神	地区インターアクト小委員会 委員
2680	山本裕一郎	神戸中	地区インターアクト小委員会 委員
2680	大西 能	明石	地区インターアクト小委員会 委員
2680	中谷 佳弘	明石東	地区インターアクト小委員会 委員
2680	後藤 直樹	西脇	地区インターアクト小委員会 委員
2680	島田 雄宇	洲本	地区インターアクト小委員会 委員
2680	尾上 克具	神崎	地区インターアクト小委員会 委員
2680	藤田 信樹	三田	地区青少年交換小委員会 委員
2680	白井 良夫	伊丹	地区 RYLA 小委員会 委員
2680	鎌谷 正弘	姫路	クラブインターアクト委員長
2680	河野 貴司	神戸西	次年度クラブインターアクト委員長

地区	氏名	クラブ	地区役職
2680	西田 俊一	芦屋	次年度クラブ青少年奉仕委員長
2690	佐藤 芳郎		国際ロータリー 理事
2690	有元 稔	岡山南	地区インターアクト副委員長
2700	濱野 良彦	福岡東南	ガバナーノミニ
2700	山本 啓之	若松中央	地区青少年奉仕委員長
2700	安増 惇夫	宗像	地区ラーニングファシリテーター
2700	八島 英孝	福岡南	地区インターアクト委員長
2700	溝江 典江	福岡東	地区インターアクト副委員長
2700	永田 充	福岡西	次年度提唱 RC インターアクト委員長
2710	佐古 隆司	広島南	地区インターアクト委員長
2720	小橋 雅之	大分臨海	インターアクト委員会 委員
2730	安川 潔	宮崎南	次年度地区インターアクト委員長
2740	石坂 和彦	大村	ガバナーエレクト
2740	森 広康	大村	次年度地区幹事
2740	徳川 清隆	唐津	地区ロータリーファミリー委員長
2740	川島 雄輔	唐津	地区インターアクト委員長
2750	水野 功	東京飛火野	国際ロータリー 理事エレクト/RIJYEM 副理事長
2750	宮崎陽市郎	東京三鷹	ガバナー
2790	津留 起夫	市原	地区危機管理委員長/RIJYEM
2770	北條 健二	川口鳩ヶ谷武南	インターアクト委員長
2780	林 雅巳	鎌倉	インターアクト委員長
2820	太田 秀夫	日立港	インターアクト委員長
2820	柴沼 博之	土浦南	インターアクト委員
2830	松山 隆志	野辺地	地区インターアクト委員長

## インターアクトクラブ

地区	氏名	提唱クラブ	学校名
2510	田中 文佳	札幌モーニング	札幌龍谷学園高等学校
2610	小坂 英洋	金沢	遊学館
2620	小笠原里枝	南アルプス	白根
2650	今西 正樹	彦根南	彦根総合高等学校
2650	水谷 友梨	武生	武生東高校
2660	三本杉博美	大阪東	開明中学校高等学校
2660	濱田 賢治	大阪西南	追手門学院大手前中・高等学校 学校長
2660	宮本佳世子	大阪西南	追手門学院大手前中・高等学校
2670	野住 幹生	今治	FC 今治高等学校 明德校
2680	吉田 究	篠山	篠山鳳鳴
2680	箱木 和子	神戸	神戸山手女子高等学校
2680	福山 太一	神戸須磨	滝川中学校・高等学校
2680	澤江 由奈	神戸垂水	神戸国際大学附属高等学校
2700	上田 順一	福岡西	福岡大学附属大濠高等学校
2710	柴田 優	福山北	英数学館中・高等学校
2720	高瀬 文徳	竹田	大分県立竹田高等学校インターアクトクラブ
2720	安部 耕二	宇佐	柳ヶ浦高等学校
2750	長谷川圭美	東京府中	明星学苑

## 第 11 回全国インタラクティブ研究会実行委員会

大会委員長	RI 理事	佐藤 芳郎 (岡山南)
大会副委員長	RI 理事エレクト	水野 功 (東京飛火野)
大会副委員長	RIJYEM 理事長	上山 昭治 (東京武蔵野中央)
大会副委員長	ガバナー	安行 英文 (三 田)
顧 問	ロータリー財団管理委員	三木 明 (姫 路)
委 員	ガバナーエレクト	矢坂 誠徳 (神戸西)
委 員	ガバナーノミニー	城 守 (姫 路)
委 員	ガバナーノミニー・デジグネート	白井 務子 (姫路東)
地区実行委員長	黒田 建一 (西宮イブニング)	
地区実行副委員長	田中 賢一 (伊丹)	
・プログラム担当委員長	贄田 肇 (宝塚)	
・総務担当委員長	白井 良夫 (伊丹)	
・会場担当委員長	舟元美智子 (神戸東灘)	
委 員	代表幹事	若林 学 (三 田)
委 員	次期代表幹事	山口 宰 (神戸西)
委 員	次々期代表幹事	三木 健義 (姫 路)
委 員	インタラクティブ小委員会副委員長	前田 隆則 (伊 丹)
委 員	RYLA 小委員長	北川 博崇 (川 西)
委 員	学友委員会副委員長	奥田 裕 (神戸モーニング)

## 第11回全国インタラクティブ研究会収支報告

委員長：D2680 黒田建一  
会計担当 RIJYEM 津留起夫  
(単位：円) 2024/6/25

項目	収入	税込	内訳	摘要
<b>(収入の部)</b>				
前年度繰越金	0			登録費単価
登録費	2,216,000		一式	本会議：RTn・学校関係者：12,000円、懇親会：8,000円：RTn・学校関係者：RTn：106名、学校関係：16名（合計122名）、登録地区数：28地区
雑費	20,900		一式	弁当代② 個人負担分現金集金（6/19）
受取利息	0			
収入金額合計	2,236,900			
<b>(支出の部)</b>				
	<b>支出</b>	<b>税込</b>	<b>内訳（本体）</b>	<b>摘要</b>
<b>1. 会場費</b>	<b>845,075</b>			
207号室（6/15-16）		383,900	349,000	会場費（本会議、分科会）
		36,300	33,000	会場備品費（演台、ステージ、手元ランプ、テーブルクロス）
		75,900	69,000	映像・音響・通信（プロジェクター、マイク、WiFi、LANアクセスP）
		38,775	35,250	参加者ペット飲料
307号室（6/15-16）		174,900	159,000	会場費（分科会）
		4,400	4,000	会場備品費（演台、Wボード）
		7,700	7,000	音響・通信（ハンドマイク、スタンド、LANアクセスP）
306号室（6/15）		94,600	86,000	実行委員会スタッフ控室
		28,600	26,000	スタッフお弁当①（会場手配）
<b>2. 懇親会費（307号室）</b>	<b>785,510</b>			
		94,600	86,000	会場費
		675,510	614,100	懇親会飲食料理
		5,500	5,000	会場備品費（ステージ）
		9,900	9,000	音響・通信（ハンドマイク、スタンド、WiFi、LANアクセスP）
<b>3. 実行委員会経費</b>	<b>113,243</b>			
		3,564		① 神戸阪急（リーフギフト代：看板作成御礼）
		22,890		② 機材リース費2泊3日（モノカリ SONYビデオカメラ3台三脚付き）
		9,630		③ 配布パンフ印刷用紙代 1250枚105gA3（アスクル）
		56,100	51,000	④ 事前準備会議代 2024.6.9（神戸駅前研修センター）
		6,947	6,315	⑤ 機材リース費（パンダスタジオ・レンタル公式サイト）ボイスレコーダ
		6,137		⑥ 行事参加者傷害保険（三井住友海上）6/15・16（非課税）
		7,480		⑦ 施設備品弁償代（Amazon HDMIケーブル）
		495		雑費（振込手数料）
<b>4. 謝礼</b>	<b>83,411</b>			
講師		50,000		⑧ 社会福祉法人イエス団賀川記念館（講師：馬場一郎様）
		33,411		⑨ RI理事E 水野 功様（個人・源泉税込）
支出金額合計	1,827,239			
収支差額	409,661			※収支差額会計処理：RIJYEM預り金処理（次年度実行委員会へ30万円前渡する）



